

# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/019110

International filing date: 21 December 2004 (21.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2004-023796  
Filing date: 30 January 2004 (30.01.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 17 February 2005 (17.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

24.12.2004

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 4 年   1 月 3 0 日  
Date of Application:

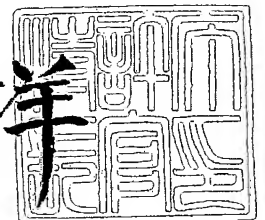
出 願 番 号            特 願 2 0 0 4 - 0 2 3 7 9 6  
Application Number:  
[ST. 10/C] :            [ J P 2 0 0 4 - 0 2 3 7 9 6 ]

出      願      人            松 下 電 器 産 業 株 式 有 限 公 司  
Applicant(s):

2 0 0 5 年   2 月   4 日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川 洋



【書類名】 特許願  
【整理番号】 2048160030  
【提出日】 平成16年 1月30日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 G09C 5/00  
【発明者】  
    【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内  
    【氏名】 布田 裕一  
【発明者】  
    【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内  
    【氏名】 大森 基司  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000005821  
    【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社  
【代理人】  
    【識別番号】 100090446  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 中島 司朗  
【先の出願に基づく優先権主張】  
    【出願番号】 特願2003-433904  
    【出願日】 平成15年12月26日  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 014823  
    【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1  
    【包括委任状番号】 9003742

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムであって

、  
前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、

前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を備えること

を特徴とする鍵発行システム。

**【請求項 2】**

鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行システムであって、

前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、

前記証明書発行サーバは、前記公開鍵に対する前記公開鍵証明書を生成する公開鍵証明書生成部を備え、

前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納部と、を備えること

を特徴とする鍵発行システム。

**【請求項 3】**

前記証明書発行サーバは、さらに、前記公開鍵が前記発行識別子に基づいた前記素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定部を備えること

を特徴とする請求項 2 記載の鍵発行システム。

**【請求項 4】**

前記素数生成部は、前記発行識別子情報に基づいて 2 つの素数を生成すること

を特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載の鍵発行システム。

**【請求項 5】**

前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び  $0 \leq c_1, c_2 < IDI$  を満たす予め与えられた整数  $c_1, c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod IDI$  及び  $N_2 = c_2 \bmod IDI$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成すること

を特徴とする請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載の鍵発行システム。

**【請求項 6】**

前記鍵判定部は、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  と前記整数  $c_1, c_2$  に対して、 $n - c_1 \times c_2$  が発行識別子情報  $IDI$  で割り切れることを判定すること

を特徴とする請求項 5 記載の鍵発行システム。

**【請求項 7】**

前記素数生成部は、第 1 素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $IDI$  を用いて  $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  で表される素数  $N$  を生成すること

を特徴とする請求項 1 から請求項 6 のいずれか 1 項に記載の鍵発行システム。

**【請求項 8】**

前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、

$len_q \geq len/2$  を満たす  $len_q$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、

乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、

前記発行識別子情報  $ID I$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times ID I \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、

前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、

前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $2^{(2R)} \neq 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えること

を特徴とする請求項 1 から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の鍵発行システム（ここで、 $a^x$  は  $a$  の  $x$  乗を示す）。

【請求項 9】

前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、

$lenq \geq len/2$  を満たす  $lenq$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、

乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、

前記発行識別子情報  $ID I$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times ID I \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、

前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、

前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $GCD(2^{(2R)} - 1, N) = 1$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えること

を特徴とする請求項 1 から請求項 7 のいずれか 1 項に記載の鍵発行システム（ここで、 $GCD(X, Y)$  は  $X$  と  $Y$  の最大公約数を示す）。

【請求項 10】

前記鍵判定部は、前記公開鍵  $n$  に対して、 $n-1$  が前記発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定すること

を特徴とする請求項 1 から請求項 9 のいずれか 1 項に記載の鍵発行システム。

【請求項 11】

前記発行識別子情報は、鍵発行サーバを識別する鍵発行サーバ識別子を含むこと

を特徴とする請求項 1 から請求項 10 のいずれか 1 項に記載の鍵発行システム。

【請求項 12】

鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置であって、

前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を備え、

前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された複数の素数を含むこと

を特徴とする端末装置。

【請求項 13】

鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置であって、

前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納部と、を備え、

前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された複数の素数を含むこと

を特徴とする端末装置。

【請求項 14】

前記秘密鍵は前記発行識別子情報に基づいて生成された 2 つの素数を含むこと

を特徴とする請求項 12 または請求項 13 に記載の端末装置。

【請求項 15】

前記 2 つの素数は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び  $0 \leq c_1$ ,  $c_2 < ID I$  を満たす予

め与えられた整数  $c_1$ ,  $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod IDI$  及び  $N_2 = c_2 \bmod IDI$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  であること

を特徴とする請求項 12 から請求項 14 のいずれか 1 項に記載の端末装置。

【請求項 16】

前記複数の素数は、第 1 素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $IDI$  を用いて  $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  で表されること

を特徴とする請求項 12 から請求項 14 のいずれか 1 項に記載の端末装置。

【請求項 17】

鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける鍵発行サーバであって、

前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備えること

を特徴とする鍵発行サーバ。

【請求項 18】

前記素数生成部は、前記発行識別子情報に基づいて 2 つの素数を生成すること

を特徴とする請求項 17 記載の鍵発行サーバ。

【請求項 19】

前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び  $0 \leq c_1$ ,  $c_2 < IDI$  を満たす予め与えられた整数  $c_1$ ,  $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod IDI$  及び  $N_2 = c_2 \bmod IDI$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成すること

を特徴とする請求項 17 または請求項 18 記載の鍵発行システム。

【請求項 20】

前記素数生成部は、第 1 素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $IDI$  を用いて  $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  で表される素数  $N$  を生成すること

を特徴とする請求項 17 から請求項 19 のいずれか 1 項に記載の鍵発行サーバ。

【請求項 21】

前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、

$lenq \geq len/2$  を満たす  $lenq$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、

乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、

前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、

前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、

前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $2^{(2R)} \neq 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えること

を特徴とする請求項 17 から請求項 20 のいずれか 1 項に記載の鍵発行サーバ。

【請求項 22】

前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、

$lenq \geq len/2$  を満たす  $lenq$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、

乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、

前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、

前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、

前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $GCD(2^{(2R)} - 1, N) = 1$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えること

を特徴とする請求項 17 から請求項 20 のいずれか 1 項に記載の鍵発行サーバ。

【請求項 23】

前記発行識別子情報は、鍵発行サーバを識別する鍵発行サーバ識別子を含むことを特徴とする請求項 17 から請求項 22 のいずれか 1 項に記載の鍵発行サーバ。

【請求項 24】

素数を生成する素数生成装置であって、

前記素数生成装置は、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成部と、を備えることを特徴とする素数生成装置。

【請求項 25】

前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び  $0 \leq c < IDI$  を満たす予め与えられた整数  $c$  に対して、 $N = c \bmod IDI$  を満たす素数  $N$  を生成すること

を特徴とする請求項 24 記載の素数生成装置。

【請求項 26】

前記素数生成部は、第 1 素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $IDI$  を用いて  $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  で表される素数  $N$  を生成すること

を特徴とする請求項 24 または請求項 25 記載の素数生成装置。

【請求項 27】

前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、

$len_q \geq len / 2$  を満たす  $len_q$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、

乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、

前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、

前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、

前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $2^{(2R)} \neq 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えること

を特徴とする請求項 24 から請求項 26 のいずれか 1 項に記載の素数生成装置。

【請求項 28】

前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、

$len_q \geq len / 2$  を満たす  $len_q$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、

乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、

前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、

前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、

前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $GCD(2^{(2R)} - 1, N) = 1$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えること

を特徴とする請求項 24 から請求項 26 のいずれか 1 項に記載の素数生成装置。

【請求項 29】

鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから RSA 暗号の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行方法であって、

前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、

前記端末装置は、データを送信する送信部と、データを受信する受信部と、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を備えること

を特徴とする鍵発行方法。

**【請求項 30】**

鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行方法であって、

前記鍵発行サーバは、データを送信する送信部と、データを受信する受信部と、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、

前記証明書発行サーバは、前記公開鍵に対する前記公開鍵証明書を生成する公開鍵証明書生成部を備え、

前記端末装置は、データを送信する送信部と、データを受信する受信部と、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納部と、を備えること

を特徴とする鍵発行方法。

**【請求項 31】**

鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置に実行させるプログラムであって、

前記プログラムは、素数を含む前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納ステップと、前記公開鍵を格納する公開鍵格納ステップと、を前記端末装置に実行させ、

前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された素数を含むこと  
を特徴とするプログラム。

**【請求項 32】**

鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置に実行させるプログラムであって、

前記プログラムは、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納ステップと、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納ステップと、を前記端末装置に実行させ、

前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された素数を含むこと  
を特徴とするプログラム。

**【請求項 33】**

鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける鍵発行サーバに実行させるプログラムであって、

前記プログラムは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成ステップと、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成ステップと、を前記鍵発行サーバに実行させること

を特徴とするプログラム。

**【請求項 34】**

素数を生成する素数生成装置に実行させるプログラムであって、

前記プログラムは、発行識別子を生成する発行識別子生成ステップと、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成ステップと、を前記素数生成装置に実行させること

を特徴とするプログラム。

**【請求項 35】**

鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムであって、



前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、

前記鍵発行監査サーバは、前記公開鍵が前記発行識別子情報に基づいた前記素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定部を備え、

前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を備えること

を特徴とする鍵発行システム。

【請求項 36】

前記素数生成部は、前記発行識別子情報に基づいて 2 つの素数を生成すること  
を特徴とする請求項 35 記載の鍵発行システム。

【請求項 37】

前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、

前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、

前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び前記鍵発行サーバの 2 つの前記検証値  $c_1$ 、 $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod ID I$  及び  $N_2 = c_2 \bmod ID I$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成し、

前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、2 つの前記検証値  $c_1$ 、 $c_2$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c_1 \times c_2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定すること

を特徴とする請求項 36 記載の鍵発行システム。

【請求項 38】

前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、

前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、

前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び前記鍵発行サーバの前記検証値  $c$  に対して、 $N_1 = c \bmod ID I$  及び  $N_2 = c \bmod ID I$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成し、

前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、前記検証値  $c$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c^2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定すること

を特徴とする請求項 36 記載の鍵発行システム。

【請求項 39】

鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行監査サーバであって、

前記鍵発行監査サーバは、前記公開鍵が発行識別子情報に基づいた素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定部を備えること

を特徴とする鍵発行監査サーバ。

【請求項 40】

前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、

前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、

前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、2つの前記検証値  $c_1$ 、 $c_2$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c_1 \times c_2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定すること

を特徴とする請求項 39 記載の鍵発行監査サーバ。

【請求項 41】

前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、

前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、

前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、前記検証値  $c$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c^2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定すること

を特徴とする請求項 39 記載の鍵発行監査サーバ。

【請求項 42】

鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行サーバであって

、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備えること

を特徴とする鍵発行サーバ。

【請求項 43】

前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、

前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び前記鍵発行サーバの2つの前記検証値  $c_1$ 、 $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod ID I$  及び  $N_2 = c_2 \bmod ID I$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成すること

を特徴とする請求項 42 記載の鍵発行サーバ。

【請求項 44】

前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、

前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び前記鍵発行サーバの前記検証値  $c$  に対して、 $N_1 = c \bmod ID I$  及び  $N_2 = c \bmod ID I$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成すること

を特徴とする請求項 42 記載の鍵発行システム。

【請求項 45】

鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行監査サーバに実行させるプログラムであって、

前記鍵発行監査サーバは、前記公開鍵が前記発行識別子情報に基づいた前記素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定ステップを、前記鍵発行監査サーバに実行させること

を特徴とするプログラム。

【請求項 46】

鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵

発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行サーバに実行させるプログラムであって、

前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成ステップと、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成ステップと、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成ステップとを、前記鍵発行サーバに実行させることを特徴とするプログラム。

【請求項 4 7】

請求項 3 1 から請求項 3 4、請求項 4 5、請求項 4 6 のいずれか 1 項に記載のプログラムを記録した媒体。

【書類名】明細書

【発明の名称】鍵発行システム、鍵発行装置、素数生成装置、鍵発行方法、素数生成方法及び記録媒体

【技術分野】

【0001】

本発明は、素因数分解を安全性の根拠として実現する暗号などの情報セキュリティ技術に関する。

【背景技術】

【0002】

近年、コンピュータ技術及び通信技術に基づくデータ通信が広く普及してきており、このデータ通信においては、秘密通信方式やデジタル署名方式が用いられる。ここで、秘密通信方式とは、特定の通信相手以外に通信内容を漏らすことなく通信を行う方式である。またデジタル署名方式とは、通信相手に通信内容の正当性を示したり、発信者の身元を証明したりする通信方式である。

【0003】

1. 公開鍵暗号方式

これらの秘密通信方式又はデジタル署名方式においては、公開鍵暗号方式とよばれる暗号方式が用いられる。公開鍵暗号方式を用いる秘密通信では、暗号化鍵と復号化鍵とが異なり、復号化鍵は秘密にするが、暗号化鍵は公開する。秘密にする復号化鍵を秘密鍵と呼び、公開する暗号化鍵を公開鍵と呼ぶ。通信相手が多数のとき、共通鍵暗号では通信相手間で鍵をもつ必要があるが、公開鍵暗号では通信相手が一つの固有の鍵をもつだけで通信可能になるため、通信相手が増えても、共通鍵暗号より鍵の数が少なくてよい。このように、公開鍵暗号は多数の通信相手と通信を行うのに適しており、不可欠な基盤技術である。

。

【0004】

公開鍵暗号方式の1種であるRSA暗号方式では、整数の素因数分解問題を解くことが、計算量の上で困難であることを安全性の根拠としている。素因数分解問題とは、 $p$ 、 $q$ を素数とし、整数 $n = p \times q$ とすると、整数 $n$ に対して、素数 $p$ 、 $q$ を求める問題である。ここで、 $\times$ は通常の乗算である。一般に $p$ 、 $q$ が1024ビットの数のように大きい場合は、素因数分解問題が困難である。それにより、RSA暗号方式の公開鍵から秘密鍵を求めることや、秘密鍵を持たないユーザが暗号文から平文を求めることが、困難になる。なお、素因数分解問題については、非特許文献1の144～151ページに詳しく述べられている。

【0005】

(素因数分解問題を応用するRSA暗号方式)

素因数分解問題を応用するRSA暗号方式について説明する。

(1) 鍵の生成

次に示すようにして公開鍵及び秘密鍵を計算する。

・ランダムに大きい素数 $p$ 、 $q$ を選択し、その積 $n = p \times q$ を計算する。

【0006】

・ $(p-1)$ 及び $(q-1)$ の最小公倍数 $L = \text{LCM}(p-1, q-1)$ を計算する。  
・ $L$ と互いに素で $L$ より小さい自然数 $e$ をランダムに選ぶ。

$1 \leq e \leq L-1$ 、 $\text{GCD}(e, L) = 1$

ここで、 $\text{GCD}(e, L)$ は、 $e$ と $L$ の最大公約数を示している。

・ $e \times d = 1 \pmod{L}$ を満たす $d$ を計算する。 $\text{GCD}(e, L) = 1$ より、このような $d$ は必ず存在する。このようにして、得られた整数 $e$ 及び整数 $n$ が、公開鍵である。また、整数 $d$ が、秘密鍵である。ここで、 $x \pmod{y}$ は、 $x$ を $y$ で割った余りを示す。

【0007】

(2) 暗号文の生成

公開鍵である整数  $e$  及び整数  $n$  を用いて、平文  $m$  に暗号演算を施して暗号文  $c$  を計算する。

$$c = m^e \mod n$$

なお、この明細書において、演算子  $^$  は、べき乗を示す。例えば、 $A^x$  は、 $x > 0$  のときは  $A$  を  $x$  回乗じたものを示す。

【0008】

(3) 復号文の生成

秘密鍵である整数  $d$  を用いて、暗号文  $c$  に復号演算を施して復号文  $m'$  を計算する。

$$m' = c^d \mod n$$

なお、

$$\begin{aligned} m' &= c^d \mod n \\ &= (m^e)^d \mod n \\ &= m^{(e \times d \mod L)} \mod n \\ &= m^1 \mod n \\ &= m \mod n \end{aligned}$$

であるので、復号文  $m'$  は、平文  $m$  と一致する。

【0009】

また、RSA暗号については、非特許文献2の110～113ページに詳しく説明されている。

上記に示した素因数分解を応用したRSA暗号における公開鍵の生成のステップにおいて、素数生成が行われる。素数生成については、非特許文献3の145～154ページに詳しく説明されている。素数生成方法には、確率的素数生成法と確定的素数生成方法がある。確率的素数生成法により生成される素数は、「素数である確率が高い」数であり、100%素数であるとは限らない。一方、確定的素数生成方法は、確実に素数である数を生成する。確率的素数生成方法及び確定的素数生成方法については、非特許文献2に詳しく説明されている。以下では、確定的素数生成方法について説明する。

【0010】

2. 従来例1—確定的素数生成方法

確定的に素数を生成することができるMaurer法による確定的素数生成方法について説明する。ここで、Maurer法については、非特許文献3の152～153ページに詳しく説明されている。

前記確定的素数生成方法では、次に示すステップを繰り返すことにより、素数を生成する。あらかじめビットサイズ  $len_q$  の素数  $q$  が与えられている。

【0011】

(ステップ1)  $(len_q - 1)$  ビットの乱数  $R$  を選択する。なお、乱数  $R$  の最上位ビットは、必ず1となるようにする。

(ステップ2) 数  $N$  を以下の式により計算する。

$$N = 2 \times q \times R + 1$$

(ステップ3) 数  $N$  が素数であるか否かを、次に示す第1判定及び第2判定がともに、成立する場合に、素数と判定する。他の場合に、素数でないと判定する。

【0012】

(第1判定)  $2^{(N-1)} = 1 \mod N$

(第2判定)  $GCD(2^{(2R)} - 1, N) = 1$

素数であると判定される場合には、数  $N$  を素数として出力する。素数でないと判定される場合には、ステップ1へ戻って、素数が出力されるまで、処理を繰り返す。

ステップ3で述べられている判定方法は、Pocklingtonの素数判定法とよばれ、非特許文献3の144ページに詳しく述べられている。Pocklingtonの素数判定法では、 $N = 2 \times q \times R + 1$  の  $q$  が素数であり、第1判定及び第2判定の結果が真であれば、必ず、 $N$  が素数になる。そのため、確定的に素数であることを判定でき、確定的な素数生成が可能になる。

## 【0013】

このようにして、Maurer法による確定的素数生成方法では、サイズ  $lenq$  の素数  $q$  を基にして、サイズ  $2 \times lenq$  の素数  $N$  を生成する。従って、Maurer法による確定的素数生成方法を用いて所定長の素数を生成する場合には、前記所定長以下の素数の生成を繰り返し行う。例えば、512ビット長の素数を生成する場合には、あらかじめ与えられた8ビットの素数を基にして16ビットの素数を生成する。次に、生成した16ビットの素数を基にして32ビットの素数を生成する。次に、生成した32ビットの素数を基にして64ビットの素数を生成する。以下同様の素数生成を繰り返して、512ビットの素数を生成する。

## 【0014】

なお、前記第2判定を次の判定に代えてもよい。

(第3判定)  $2^{(2R)} \neq 1 \pmod{N}$

上記第3判定方法は、非特許文献4に詳しく述べられている。以降、こちらの判定方法を使用していく。

## 3. 複数の鍵発行サーバをもつ鍵発行システム

公開鍵暗号の鍵発行システムでは、ユーザが鍵を生成する場合や、鍵発行サーバによりユーザに鍵を発行する場合がある。鍵発行サーバにより鍵を発行する場合、ユーザに鍵を発行するサーバは一台であることが多い。しかし、ユーザが増加すると、上記のような素数生成方法は、複数回べき乗を行うことにより計算量が大きいため、計算時間が大きくなってくる。そこで、鍵発行サーバを複数もち、それぞれで鍵発行をすることにより、計算量の分散を図ることがある。

【特許文献1】特開2003-5644号公報

【非特許文献1】岡本龍明、太田和夫共編、「暗号・ゼロ知識問題・数論」、共立出版、1990

【非特許文献2】岡本龍明、山本博資、「現代暗号」、産業図書(1997年)

【非特許文献3】A. J. Menezes, P. C. van Oorschot, S. A. Vanstone, "Handbook of applied cryptography", CRC Press, 1997

【非特許文献4】岡本栄司、「暗号理論入門」、共立出版、1993、21ページ

【非特許文献5】Henri Cohen, "A Course in Computational Algebraic Number Theory", GTM 138, Springer-Verlag, 1993

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0015】

鍵発行システムで鍵発行サーバを複数もち場合、鍵発行がシステム全体で正しく行われていることを保証するため、鍵発行システム全体で統一的に同じ鍵発行方法を使用し、管理したいとの要望がある。また、鍵発行サーバでソフトウェアのバグなどにより、正しい鍵発行できない場合がある。システムから与えられた鍵発行方法を用いていることを検証機関により確認できれば、正しく鍵発行していることのある種の根拠となり、統一的な鍵発行を運用するための補助となる。また、鍵発行サーバが不正を働く可能性もあるため、この確認は、鍵発行したサーバ以外が行うのが望ましい。さらに、発行した秘密鍵を用いて確認を行うことは、検証機関が秘密鍵を暴露する可能性があり、望ましくない。したがって、発行した公開鍵を用いて確認できることが望ましい。

## 【0016】

本発明は、公開鍵を用いて、正しく鍵発行しているかを確認できる鍵発行システムを提供することを目的とする。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0017】

上記目的を達成するために、請求項1における発明は、鍵発行サーバと、端末装置を備

え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムであって、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を備えることを特徴とする。

#### 【0018】

請求項2における発明は、鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行システムであって、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、前記証明書発行サーバは、前記公開鍵に対する前記公開鍵証明書を生成する公開鍵証明書生成部を備え、前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納部と、を備えることを特徴とする。

#### 【0019】

請求項3における発明は、前記証明書発行サーバは、さらに、前記公開鍵が前記発行識別子に基づいた前記素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定部を備えることを特徴とする。

請求項4における発明は、前記素数生成部は、前記発行識別子情報に基づいて2つの素数を生成することを特徴とする。

#### 【0020】

請求項5における発明は、前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び  $0 \leq c_1$ ,  $c_2 < ID I$  を満たす予め与えられた整数  $c_1$ ,  $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod ID I$  及び  $N_2 = c_2 \bmod ID I$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成することを特徴とする。

請求項6における発明は、前記鍵判定部は、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  と前記整数  $c_1$ ,  $c_2$  に対して、 $n - c_1 \times c_2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定することを特徴とする。

#### 【0021】

請求項7における発明は、前記素数生成部は、第1素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $ID I$  を用いて  $N = 2 \times R \times ID I \times q + 1$  で表される素数  $N$  を生成することを特徴とする。

請求項8における発明は、前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、 $len q \geq len / 2$  を満たす  $len q$  ビットの第1の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、前記発行識別子情報  $ID I$ 、前記第1の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times ID I \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第1の素数判定部と、前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $2^{(2R)} \neq 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第2の素数判定部と、を備えることを特徴とする（ここで、 $a^x$  は  $a$  の  $x$  乗を示す）。

#### 【0022】

請求項9における発明は、前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、 $len q \geq len / 2$  を満たす  $len q$  ビットの第1の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、前記発行識別子情報  $ID I$ 、前記第1の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times ID I \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \bmod N$  を満たすか否かを判定する第1の素数判定部と、前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $GCD(2^{(2R)} - 1$

,  $N) = 1$  を満たすか否かを判定する第2の素数判定部と、を備えることを特徴とする（ここで、 $GCD(X, Y)$  は  $X$  と  $Y$  の最大公約数を示す）。

**【0023】**

請求項10における発明は、前記鍵判定部は、前記公開鍵  $n$  に対して、 $n-1$  が前記発行識別子情報  $IDI$  で割り切れることを判定することを特徴とする。

請求項11における発明は、前記発行識別子情報は、鍵発行サーバを識別する鍵発行サーバ識別子を含むことを特徴とする。

請求項12における発明は、鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置であって、前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を備え、前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された複数の素数を含むことを特徴とする。

**【0024】**

請求項13における発明は、鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置であって、前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納部と、を備え、前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された複数の素数を含むことを特徴とする。

**【0025】**

請求項14における発明は、前記秘密鍵は前記発行識別子情報に基づいて生成された2つの素数を含むことを特徴とする。

請求項15における発明は、前記2つの素数は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び  $0 \leq c_1$ ,  $c_2 < IDI$  を満たす予め与えられた整数  $c_1$ ,  $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod IDI$  及び  $N_2 = c_2 \bmod IDI$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  であることを特徴とする。

**【0026】**

請求項16における発明は、前記複数の素数は、第1素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $IDI$  を用いて  $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  で表されることを特徴とする。

請求項17における発明は、鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける鍵発行サーバであって、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備えることを特徴とする。

**【0027】**

請求項18における発明は、前記素数生成部は、前記発行識別子情報に基づいて2つの素数を生成することを特徴とする。

請求項19における発明は、前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び  $0 \leq c_1$ ,  $c_2 < IDI$  を満たす予め与えられた整数  $c_1$ ,  $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod IDI$  及び  $N_2 = c_2 \bmod IDI$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成することを特徴とする。

**【0028】**

請求項20における発明は、前記素数生成部は、第1素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $IDI$  を用いて  $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  で表される素数  $N$  を生成することを特徴とする。

請求項21における発明は、前記素数生成部は、 $1 \leq n$  ビットの素数を生成し、 $1 \leq n$ ,  $q \geq 1 \leq n/2$  を満たす  $1 \leq n$  ビットの第1の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第1の素数  $q$  及び前



記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $2^{(2R)} \neq 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えることを特徴とする。

**【0029】**

請求項 22 における発明は、前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、 $len \geq len/2$  を満たす  $len$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $GCD(2^{(2R)} - 1, N) = 1$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えることを特徴とする。

**【0030】**

請求項 23 における発明は、前記発行識別子情報は、鍵発行サーバを識別する鍵発行サーバ識別子を含むことを特徴とする。

請求項 24 における発明は、素数を生成する素数生成装置であって、前記素数生成装置は、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成部と、を備えることを特徴とする。

**【0031】**

請求項 25 における発明は、前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び  $0 \leq c < IDI$  を満たす予め与えられた整数  $c$  に対して、 $N = c \pmod{IDI}$  を満たす素数  $N$  を生成することを特徴とする。

請求項 26 における発明は、前記素数生成部は、第 1 素数  $q$ 、乱数  $R$  及び前記発行識別子情報  $IDI$  を用いて  $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  で表される素数  $N$  を生成することを特徴とする。

**【0032】**

請求項 27 における発明は、前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、 $len \geq len/2$  を満たす  $len$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $2^{(2R)} \neq 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えることを特徴とする。

**【0033】**

請求項 28 における発明は、前記素数生成部は、 $len$  ビットの素数を生成し、 $len \geq len/2$  を満たす  $len$  ビットの第 1 の素数  $q$  を生成する素数情報生成手段と、乱数  $R$  を生成する乱数生成手段と、前記発行識別子情報  $IDI$ 、前記第 1 の素数  $q$  及び前記乱数  $R$  を用いて、 $N = 2 \times R \times IDI \times q + 1$  なる素数候補  $N$  を生成する素数候補生成部と、前記素数候補  $N$  に対し、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する第 1 の素数判定部と、前記素数候補  $N$  及び前記乱数  $R$  に対し、 $GCD(2^{(2R)} - 1, N) = 1$  を満たすか否かを判定する第 2 の素数判定部と、を備えることを特徴とする。

**【0034】**

請求項 29 における発明は、鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから RSA 暗号の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行方法であって、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、前記端末装置は、データを送信する送信部と、データを受信する受信部と、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を

備えることを特徴とする。

【0035】

請求項30における発明は、鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行方法であって、前記鍵発行サーバは、データを送信する送信部と、データを受信する受信部と、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、前記証明書発行サーバは、前記公開鍵に対する前記公開鍵証明書を生成する公開鍵証明書生成部を備え、前記端末装置は、データを送信する送信部と、データを受信する受信部と、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納部と、を備えることを特徴とする。

【0036】

請求項31における発明は、鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置に実行させるプログラムであって、前記プログラムは、素数を含む前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納ステップと、前記公開鍵を格納する公開鍵格納ステップと、を前記端末装置に実行させ、前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された素数を含むことを特徴とする。

【0037】

請求項32における発明は、鍵発行サーバと、証明書発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバが素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を生成し、前記証明書発行サーバが前記公開鍵に対する公開鍵証明書を生成し、前記鍵発行サーバが前記秘密鍵及び公開鍵証明書を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける端末装置に実行させるプログラムであって、前記プログラムは、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納ステップと、前記公開鍵証明書を格納する公開鍵証明書格納ステップと、を前記端末装置に実行させ、前記秘密鍵は発行識別子情報に基づいて生成された素数を含むことを特徴とする。

【0038】

請求項33における発明は、鍵発行サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信する鍵発行システムにおける鍵発行サーバに実行させるプログラムであって、前記プログラムは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成ステップと、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成ステップと、を前記鍵発行サーバに実行させることを特徴とする。

【0039】

請求項34における発明は、素数を生成する素数生成装置に実行させるプログラムであって、前記プログラムは、発行識別子を生成する発行識別子生成ステップと、前記発行識別子情報に基づいて素数を生成する素数生成ステップと、を前記素数生成装置に実行させることを特徴とする。

請求項35における発明は、鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムであって、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備え、前記鍵発行監査サーバは、前記公開鍵が前記発行識別子情報に基づいた前記素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定部を備え、前記端末装置は、前記秘密鍵を格納する秘密鍵格納部と、前記公開鍵を格納する公開鍵格納部と、を備えることを特徴とする。

## 【0040】

請求項36における発明は、前記素数生成部は、前記発行識別子情報に基づいて2つの素数を生成することを特徴とする。

請求項37における発明は、前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び前記鍵発行サーバの2つの前記検証値  $c_1$ 、 $c_2$  に対して、 $N_1 = c_1 \bmod ID I$  及び  $N_2 = c_2 \bmod ID I$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成し、前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、2つの前記検証値  $c_1$ 、 $c_2$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c_1 \times c_2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定することを特徴とする。

## 【0041】

請求項38における発明は、前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $ID I$  及び前記鍵発行サーバの前記検証値  $c$  に対して、 $N_1 = c \bmod ID I$  及び  $N_2 = c \bmod ID I$  を満たす素数  $N_1$  及び  $N_2$  を生成し、前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、前記検証値  $c$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c^2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定することを特徴とする。

## 【0042】

請求項39における発明は、鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行監査サーバであって、前記鍵発行監査サーバは、前記公開鍵が発行識別子情報に基づいた素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定部を備えることを特徴とする。

## 【0043】

請求項40における発明は、前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、2つの前記検証値  $c_1$ 、 $c_2$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c_1 \times c_2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定することを特徴とする。

## 【0044】

請求項41における発明は、前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、前記鍵発行監査サーバは、さらに前記サーバ識別子と前記検証値の対応表である検証値テーブルを格納した検証値情報格納部を備え、前記鍵判定部は、監査する前記鍵発行サーバの前記サーバ識別子に基づき、前記検証値情報格納部に格納された前記検証値テーブルを用いて、前記検証値  $c$  を取得し、前記素数  $N_1$  及び  $N_2$  の積である前記公開鍵  $n (= N_1 \times N_2)$  に対して、 $n - c^2$  が発行識別子情報  $ID I$  で割り切れることを判定することを特徴とする。

## 【0045】

請求項42における発明は、鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵

を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行サーバであって、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成部と、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成部と、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成部と、を備えることを特徴とする。

**【0046】**

請求項43における発明は、前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び前記鍵発行サーバの2つの前記検証値  $c1$ 、 $c2$  に対して、 $N1 = c1 \bmod IDI$  及び  $N2 = c2 \bmod IDI$  を満たす素数  $N1$  及び  $N2$  を生成することを特徴とする。

**【0047】**

請求項44における発明は、前記鍵発行サーバは複数存在し、それらのそれぞれに対しサーバ識別子と自然数である検証値が予め対応づけられ、前記素数生成部は、前記発行識別子情報  $IDI$  及び前記鍵発行サーバの前記検証値  $c$  に対して、 $N1 = c \bmod IDI$  及び  $N2 = c \bmod IDI$  を満たす素数  $N1$  及び  $N2$  を生成することを特徴とする。

。

**【0048】**

請求項45における発明は、鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行監査サーバに実行させるプログラムであって、前記鍵発行監査サーバは、前記公開鍵が前記発行識別子情報に基づいた前記素数を用いて生成されているかを判定する鍵判定ステップを、前記鍵発行監査サーバに実行させることを特徴とする。

**【0049】**

請求項46における発明は、鍵発行サーバと、鍵発行監査サーバと、端末装置を備え、前記鍵発行サーバから素因数分解問題を安全性の根拠とする暗号方式の秘密鍵及び公開鍵を前記端末装置へ送信し、鍵発行監査サーバが鍵発行サーバを監査する鍵発行システムにおける鍵発行サーバに実行させるプログラムであって、前記鍵発行サーバは、発行識別子を生成する発行識別子生成ステップと、前記発行識別子情報に基づいて複数の素数を生成する素数生成ステップと、前記素数を用いて前記秘密鍵及び前記公開鍵を生成する鍵生成ステップとを、前記鍵発行サーバに実行させることを特徴とする。

**【0050】**

請求項47における発明は、請求項31から34及び45から46のいずれかに記載のプログラムを記録した媒体である。

**【発明の効果】****【0051】**

これらの構成によると、正しく鍵発行しているかを発行識別子情報  $IDI$  で割り切れるかをチェックすることで確認でき、その価値は大きい。

**【発明を実施するための最良の形態】****【0052】****(実施の形態1)**

本発明に係る1の実施の形態としての素数生成装置1について、説明する。

図1は、実施の形態1における素数生成装置の構成を示す図である。

この素数生成装置1は、素数  $q$ 、 $q$  のビットサイズ  $len q$ 、発行識別子情報  $IDI$  及び発行識別子情報のビットサイズ  $len IDI$  が与えられたとき、 $q$  のビットサイズ  $len q$  の2倍のビットサイズ  $2 \times len q$  をもつ素数を出力するものである。

**【0053】****<素数生成装置1の構成>**

素数生成装置1は、乱数生成部11と、素数候補生成部12と、第1素数判定部13と、第2素数判定部14と、を備える。

乱数生成部 11 は、 $lenq$  を用いて、 $(lenq - lenIDI - 1)$  ビットの乱数  $R'$  を生成する。ここで、乱数  $R'$  の最上位ビットは 1 とする。

#### 【0054】

素数候補生成部 12 は、 $q$  及び  $R'$  を用いて、以下の式を満たす  $R$  と  $N$  を生成する。

$$R = IDI \times R'$$

$$N = 2 \times R \times q + 1$$

第 1 素数判定部 13 は、 $N$  を用いて、以下の式の成立を判定する。

$$2^{(N-1)} = 1 \pmod{N} \quad (eq1)$$

ここで、 $2^{(N-1)}$  は、2 の  $N-1$  乗を示している。

#### 【0055】

第 2 素数判定部 14 は、 $N$  と  $R$  を用いて、以下の式を満たすか否かを判定する。

$$2^{(2R)} \neq 1 \pmod{N} \quad (eq2)$$

#### <素数生成装置 1 の動作>

以下に素数生成装置 1 の動作を示す。図 2 にこの動作のフローチャートを示す。

ステップ S101: 乱数生成部 11 は、 $(lenq - lenIDI - 1)$  ビットの乱数  $R'$  を生成する。ここで、 $R'$  の最上位ビットは 1 とする。

#### 【0056】

ステップ S102: 素数候補生成部 12 は、 $R$  と  $N$  を計算する。

ステップ S103: 第 1 素数判定部 13 は、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  の成立を判定する。この式が成立する場合は次のステップへ。成立しない場合はステップ S101 へ。

ステップ S104: 第 2 素数判定部 14 は、 $2^{(2R)} \neq 1 \pmod{N}$  を満たすか否かを判定する。この式が成立する場合は  $N$  を出力し、終了する。成立しない場合は、ステップ S101 へ。

#### 【0057】

#### <実施の形態 1 の効果>

生成された素数  $N$  に対して、 $N-1$  は必ず発行識別子情報  $IDI$  で割り切れる。なぜなら、 $N-1 = 2 \times q \times R = 2 \times q \times IDI \times R'$  が成り立つためである。したがって、生成された素数が発行識別子情報  $IDI$  で割り切れるか否かで、素数生成装置 1 を用いて素数が生成されたかを確認することができる。

#### 【0058】

なお、 $IDI$  のビットサイズが  $lenIDI$  であり、 $R'$  のビットサイズが  $(lenq - lenIDI - 1)$  であるため、ほとんどの  $N = 2 \times q \times IDI \times R' + 1$  のビットサイズは、 $2 \times lenq$  となる。ここで、 $q$  や  $IDI$  などの値によっては、ビットサイズが  $2 \times lenq - 1$  となる場合がある。その場合は、素数候補生成部 12 で、 $R'$  に 2 を掛けて、それを新たに  $R'$  とみなすことにより、 $N$  のビットサイズを  $2 \times lenq$  になるように設定する。

#### 【0059】

#### (実施の形態 2)

本発明に係る 2 の実施の形態としての素数生成装置 2 について、説明する。

図 3 は、実施の形態 2 における素数生成装置の構成を示す図である。

この素数生成装置 2 は、素数  $q$ 、 $q$  のビットサイズ  $lenq$ 、発行識別子情報  $IDI$ 、発行識別子情報のビットサイズ  $lenIDI$  及び検証値  $c$  が与えられたとき、 $q$  のビットサイズ  $lenq$  の 2 倍のビットサイズ  $2 \times lenq$  をもつ素数を出力するものである。ここで、 $IDI$  は奇数とする。

#### 【0060】

#### <素数生成装置 2 の構成>

素数生成装置 2 は、実施形態 1 の素数生成装置 1 と同様の乱数生成部 11 と、第 1 素数判定部 13 と、第 2 素数判定部 14 と、素数生成装置 1 と異なる素数候補生成部 22 と、を備える。

素数候補生成部 22 は、 $q$  及び  $R'$  を用いて、以下の式を満たす  $R$  と  $N$  を生成する。

【0061】

$$R = IDI \times R'$$

$$N = 2 \times (R + w) \times q + 1$$

ここで、 $w$  は  $2 \times w \times q + 1 = c \pmod{IDI}$ ,  $0 \leq w < IDI$  を満たす数である。 $w$  は、 $w = (c - 1) \times m \pmod{IDI}$  を計算することにより求める。 $m$  は  $(2 \times q) \times m = 1 \pmod{IDI}$  を満たす数である。 $IDI$  が奇数、すなわち、 $GCD(IDI, 2) = 1$  であり、 $IDI < q$  であるため、 $m$  は計算可能である。計算方法については、非特許文献 5 が詳しい。

【0062】

<素数生成装置 2 の動作>

以下に素数生成装置 2 の動作を示す。図 4 にこの動作のフローチャートを示す。

ステップ S201: 乱数生成部 11 は、 $(len q - len IDI - 1)$  ビットの乱数  $R'$  を生成する。ここで、 $R'$  の最上位ビットは 1 とする。

ステップ S202: 素数候補生成部 22 は、 $R$  と  $N$  を計算する。

【0063】

ステップ S203: 第 1 素数判定部 13 は、 $2^{(N-1)} = 1 \pmod{N}$  の成立を判定する。この式が成立する場合は次のステップへ。成立しない場合はステップ S201 へ。

ステップ S204: 第 2 素数判定部 14 は、 $2^{(2R)} \neq 1 \pmod{N}$  の成立を判定する。この式が成立する場合は  $N$  を出力し、終了する。成立しない場合は、ステップ S201 へ。

【0064】

<実施の形態 2 の効果>

生成された素数  $N$  に対して、 $N - c$  は必ず発行識別子情報  $IDI$  で割り切れる。なぜなら、 $N - c = 2 \times q \times R + 1 - c = 2 \times q \times (IDI \times R' + w) + 1 - c$  であり、 $2 \times q \times w + 1 = c \pmod{IDI}$  が成り立つためである。したがって、生成された素数  $N$  に対し、 $N - c$  が発行識別子情報  $IDI$  で割り切れるか否かで、素数生成装置 2 を用いて素数が生成されたかを確認することができる。

【0065】

なお、 $IDI$  のビットサイズが  $len IDI$  であり、 $R'$  のビットサイズが  $(len q - len IDI - 1)$  であるため、ほとんどの  $N = 2 \times q \times (IDI \times R' + w) + 1$  のビットサイズは、 $2 \times len q$  となる。ここで、 $q$  や  $IDI$  などの値によっては、ビットサイズが  $2 \times len q - 1$  となる場合がある。その場合は、素数候補生成部 12 で、 $R'$  に 2 を掛けて、それを新たに  $R'$  とみなすことにより、 $N$  のビットサイズを  $2 \times len q$  になるように設定する。

【0066】

(実施の形態 3)

本発明に係る 3 の実施の形態としての鍵発行システム 3 について、説明する。

図 5 は、実施の形態 3 における鍵発行システム 3 の構成を示す図である。本システムは、鍵発行サーバ A31、B32、C33 と、証明書発行サーバ 34 と、端末装置 351、352、353、...、35m から構成される。 $m$  は自然数であり、例えば 1000 である。この場合、端末装置が 1000 台存在することになる。

【0067】

<鍵発行サーバ A31、B32、C33 の構成>

鍵発行サーバ A31、B32、C33 は同じ構成であるため、以下では代表して鍵発行サーバ A31 の構成を示す。鍵発行サーバ A31、B32、C33 にはそれぞれ、予め識別子: SIDA、SIDB、SIDC が与えられている。

鍵発行サーバ A31 は、予め与えられた検証値  $c_1$ ,  $c_2$  を用いて RSA 暗号における秘密鍵及び公開鍵を生成し、公開鍵を証明書発行サーバへ送信し、公開鍵証明書を受信し

た後、端末装置へ送信する。

#### 【0068】

鍵発行サーバ31は、送信部3101と、受信部3102と、識別子生成部3103と、識別子格納部3104と、素数生成部3105と、発行秘密鍵判定部3106と、発行鍵生成部3107と、発行秘密鍵格納部3108と、発行公開鍵格納部3109と、証明書格納部3110を備える（図6参照）。

送信部3101は、端末装置35i（ $i=1\sim n$ ）へ生成した秘密鍵及び公開鍵証明書Certを、証明書発行サーバ34へ公開鍵を送信する。公開鍵証明書については、証明書発行サーバ34の構成の説明で述べる。

#### 【0069】

受信部3102は、端末装置35iから鍵生成要求情報を、証明書発行サーバ34から公開鍵証明書Certを受信する。

識別子生成部3103は、端末装置35i用に素数の発行識別子情報IDIを生成し、識別子格納部3104に格納する。発行識別子情報IDIは、予め与えられた各鍵発行サーバに対応する識別子：SID（A31はSIDA、B32はSIDB、C33はSIDC）と発行識別子：PIDからなる。例えば、 $IDI = SID || PID$ とする。ここで、 $||$ はビットまたはバイト連結である。発行識別子は例えば、1から発行順に数字を割り当て、発行するたびにインクリメントする。

#### 【0070】

識別子格納部3104は、素数の発行識別子情報IDIを格納する。

素数生成部3105は、512ビット素数を生成する。なお、ここでは鍵長が1024ビットのRSAを想定しているため、512ビット素数を生成するとしたが、鍵長をlenビットとして、 $len/2$ ビットの素数を生成するとしてもよい。

（素数生成部3105の構成及び動作）

素数生成部3105は、第1の素数情報生成部31051と、第2の素数情報生成部31052と、を備える（図7参照）。

#### 【0071】

第1の素数情報生成部31051は、256ビットの素数qを生成する。素数の生成方法は従来の方法を用いる。従来の方法については、特許文献1及び非特許文献3が詳しい。

第2の素数情報生成部31052は、256ビット素数qと、qのビットサイズ256と、発行識別子情報IDI及び、予め与えられた検証値c1またはc2を用いて、512ビットの素数Nを生成する。第2の素数情報生成部31052は、実施の形態2の素数生成装置2を用いて、素数Nを生成する。

#### 【0072】

発行秘密鍵判定部3106は、2回の素数生成部3105の処理を実行して出力された素数p1とp2が一致しているかを比較する。

発行鍵生成部3107は、発行秘密鍵格納部3108に格納されている秘密鍵p1、p2の積 $n = p1 \times p2$ を計算し、さらに、乱数eを生成し、それらのnとeの組 $PK = (n, e)$ を公開鍵とする。

#### 【0073】

その後、 $e \times d = 1 \mod L$ を満たすdを計算し秘密鍵とする。ここで、 $L = LCM(p1-1, p2-1)$ である。 $LCM(p1-1, p2-1)$ はp1-1とp2-1の最小公倍数を示す。

発行秘密鍵格納部3108は、素数生成部3105で生成した2つの素数p1、p2と発行鍵生成部で作成したdの組 $SK = (p1, p2, d)$ を秘密鍵として格納する。

#### 【0074】

発行公開鍵格納部3109は、発行鍵生成部3107で生成した公開鍵PKを格納する。

証明書格納部3110は、証明書発行サーバ34が送信した公開鍵証明書Certを格



納する。

＜鍵発行サーバA31、B32、C33の動作＞

鍵発行サーバA31、B32、C33の動作は同様であるため、以下に代表して鍵発行サーバA31の動作を示す。ここでは、端末装置35i (iは1からmのいずれかの数) から鍵発行依頼情報が送信された場合の動作を示している。図8にこの動作のフローチャートを示す。

【0075】

ステップS301: 受信部3102は、端末装置35iより送信された鍵発行依頼情報を受信する。

ステップS302: 識別子生成部3103は、発行識別子情報: IDIを生成し、識別子格納部3104に格納する。

ステップS303: 素数生成部3105は、予め与えられた検証値c1を用いて、素数p1を生成する。

【0076】

ステップS304: 素数生成部3105は、予め与えられた検証値c2を用いて、素数p2を生成する。

ステップS305: 発行秘密鍵判定部3106は、素数p1とp2が $p1 = p2$ を満たすかを判定する。p1 = p2の場合は、ステップS304へ。それ以外は、発行秘密鍵格納部3108に格納する。次のステップへ。

【0077】

ステップS306: 発行鍵生成部3107は、 $n = p1 \times p2$ を計算する。また、発行鍵生成部3107は、乱数eを生成し、nとeの組 $PK = (n, e)$ を公開鍵として発行公開鍵格納部3109に格納する。さらに、発行鍵生成部3107は、 $e \times d = 1 \text{ mod } dL$ を満たすdを計算し、p1、p2とdの組 $SK = (p1, p2, d)$ を秘密鍵として発行秘密鍵格納部3108に格納する。

【0078】

ステップS307: 送信部3101は、発行公開鍵格納部3109に格納されている公開鍵PK及び識別子格納部3104に格納されている発行識別子情報IDIを証明書発行サーバ34へ送信する。

ステップS308: 受信部3102は、証明書発行サーバ34より送信された公開鍵証明書Certを受信し、証明書格納部3110に格納する。

【0079】

ステップS309: 送信部3101は、発行秘密鍵格納部3108に格納されている秘密鍵 $SK = (p1, p2, d)$ と、証明書格納部3110に格納されている公開鍵証明書Certを端末装置35iへ送信し、終了する。

＜証明書発行サーバ34の構成＞

証明書発行サーバ34は、送信部341と、受信部342と、秘密鍵格納部343と、発行公開鍵確認部344と、発行公開鍵格納部345と、発行識別子情報格納部346と、公開鍵証明書生成部347と、公開鍵証明書格納部348と、を備える(図9参照)。

【0080】

送信部341は、証明書Certを鍵発行サーバA31、B32または、C33へ送信する。

受信部342は、鍵発行サーバA31、B32または、C33から公開鍵n、eを受信する。

秘密鍵格納部343は、証明書発行サーバ34の秘密鍵SKCAを格納する。

【0081】

発行公開鍵確認部344は、鍵発行サーバA31、B32またはC33から受信した公開鍵 $PK = (n, e)$ と発行識別子情報IDIを用いて、公開鍵 $PK = (n, e)$ が発行識別子情報IDIを用いて生成されたかを確認する。具体的には、検証値c1及びc2を用いて、 $n - c1 \times c2$ がIDIで割り切れるかでチェックする。割り切れる場合は、公



公開鍵  $PK = (n, e)$  が発行識別子情報  $IDI$  で生成されたと判断し、それ以外は発行識別子情報  $IDI$  で生成されていないと判断する。

#### 【0082】

発行公開鍵格納部 345 は、鍵発行サーバ A31、B32 または C33 から受信した公開鍵  $PK = (n, e)$  を格納する。

発行識別子情報格納部 346 は、鍵発行サーバ A31、B32 または C33 から受信した発行識別子情報  $IDI$  を格納する。

公開鍵証明書生成部 347 は、公開鍵  $PK$  と発行識別子情報  $IDI$  に対する公開鍵証明書  $Cert$  を、秘密鍵格納部 343 に格納されている秘密鍵  $SKCA$  を用いて生成する。具体的には、例えば、 $Cert = n || e || IDI || Sig(SKCA, n || e || IDI)$  とする。ここで、 $Sig(K, D)$  はデータ  $D$  に対する鍵  $K$  を用いたときの署名データである。また、 $||$  はビットまたはバイトの連結である。

#### 【0083】

公開鍵証明書格納部 348 は、公開鍵証明書  $Cert$  を格納する。

##### <証明書発行サーバ 34 の動作>

以下に証明書発行サーバ 34 の動作を示す。ここでは、証明書を発行する先を鍵発行サーバ A31 として動作を示す。なお、他の鍵発行サーバ (B32、C33) を発行先の場合も同様の動作を行う。図 10 にこの動作のフローチャートを示す。

#### 【0084】

ステップ S401: 受信部 342 は、鍵発行サーバ A31 から送信された公開鍵  $PK = (n, e)$  と発行識別子情報  $IDI$  を受信する。

ステップ S402: 発行公開鍵確認部 344 は、公開鍵  $PK = (n, e)$  が発行識別子情報  $IDI$  を用いて生成されたかを確認する。公開鍵  $PK = (n, e)$  が発行識別子情報  $IDI$  で生成されていると判断した場合は、次のステップへ。それ以外は、システムを終了する。

#### 【0085】

ステップ S403: 発行公開鍵格納部 345 は、公開鍵  $PK = (n, e)$  を、発行識別子情報格納部 346 は、発行識別子情報  $IDI$  をそれぞれ格納する。

ステップ S404: 公開鍵証明書生成部 347 は、公開鍵  $PK = (n, e)$  と発行識別子情報  $IDI$  に対する公開鍵証明書  $Cert$  を生成し、公開鍵証明書格納部 348 に格納する。

#### 【0086】

ステップ S405: 送信部 341 は、公開鍵証明書格納部 348 に格納されている公開鍵証明書  $Cert$  を鍵発行サーバ A31 へ送信し、終了する。

##### <端末装置 35i (i = 1 ~ n) の構成>

端末装置 351、352、353、...、35n はそれぞれ、同じ構成をしているため、以下では代表して、端末装置 35i の構成を示す。

#### 【0087】

端末装置 35i は、送信部 35i1 と、受信部 35i2 と、秘密鍵格納部 35i3 と、公開鍵格納部 35i4 と、発行識別子情報格納部 35i5 と、を備える (図 11 参照)。

送信部 35i1 は、鍵発行依頼情報を鍵発行サーバ A31、B32、C33 のいずれかへ送信する。鍵発行依頼情報は、例えば、端末装置 35i を示す識別子情報などである。

受信部 35i2 は、鍵発行サーバ A31、B32、C33 のいずれかから送信された秘密鍵  $SK = (p1, p2, d)$ 、公開鍵  $PK = (n, e)$  と、発行識別子情報  $IDI$  を受信する。

#### 【0088】

秘密鍵格納部 35i3 は、秘密鍵  $SK = (p1, p2, d)$  を格納する。

公開鍵格納部 35i4 は、公開鍵証明書  $Cert$  を格納する。

##### <端末装置 35i の動作>

以下に端末装置 35i の動作を示す。ここでは、鍵発行サーバ A31 に鍵発行を依頼す

る場合の動作を示している。図12にこの動作のフローチャートを示す。

#### 【0089】

ステップS501:送信部35i1は、鍵発行依頼情報を鍵発行サーバA31へ送信する。

ステップS502:受信部35i2は、鍵発行サーバA31より送信された秘密鍵 $SK = (p1, p2, d)$ 、公開鍵証明書 $Cert$ を受信する。

ステップS503:秘密鍵格納部35i3は、秘密鍵 $SK = (p1, p2, d)$ を格納する。

#### 【0090】

ステップS504:公開鍵証明書格納部35i4は、公開鍵証明書 $Cert$ を格納し、終了する。

#### <鍵発行システム3の動作>

以下に鍵発行システム3の動作を示す。以下では、鍵発行サーバA31が端末装置35iに鍵を発行するときの動作を示す。端末装置35iは、まず、鍵発行依頼情報を鍵発行サーバA31へ送信する。鍵発行サーバA31は、鍵発行依頼情報を受信した後、発行識別子情報 $IDI$ を作成する。その後、鍵発行サーバA31は秘密鍵 $SK = (p1, p2, d)$ 、公開鍵証明書 $PK = (n, e)$ を生成する。さらに、鍵発行サーバA31は、公開鍵 $PK = (n, e)$ と発行識別子情報 $IDI$ を証明書発行サーバ34へ送信する。証明書発行サーバ34は、公開鍵 $PK$ に対応する秘密鍵 $SK$ に含まれる素数 $p1, p2$ が発行識別子情報 $IDI$ を用いて生成されているかを判定する。証明書発行サーバ34は、判定結果が肯定的な場合に、公開鍵 $PK$ に対する公開鍵証明書 $Cert$ を生成し、公開鍵証明書 $Cert$ を鍵発行サーバA31へ送信する。鍵発行サーバA31は、秘密鍵 $SK = (p1, p2, d)$ と公開鍵証明書 $Cert$ を端末装置35iへ送信する。端末装置35iは、秘密鍵 $SK$ 、公開鍵証明書 $Cert$ を格納し、システムを終了する。

#### 【0091】

#### <実施の形態3の効果>

証明書発行サーバは、鍵発行サーバが正しく発行識別子情報 $IDI$ を用いて生成しているかを確認することができる。なぜなら、秘密鍵である素数 $p1, p2$ はそれぞれ、素数 $q1, q2$ 、乱数 $R1', R2'$ 、発行識別子情報 $IDI$ に対して、 $p1 = 2 \times q1 \times (IDI \times R1' + r1') + 1 = c1 \mod IDI$ 、 $p2 = 2 \times q2 \times (IDI \times R2' + r2') + 1 = c2 \mod IDI$ を満たすため、

$$n = p1 \times p2 = (2 \times q1 \times IDI \times R1' + 1) \times (2 \times q2 \times IDI \times R2' + 1)$$

$$= c1 \times c2 \mod IDI$$

となる。そのため、 $n - c1 \times c2$ は $IDI$ で割り切れるため、 $n - c1 \times c2$ が $IDI$ で割り切れることを確認することで、素数 $p1, p2$ が正しく発行識別子情報 $IDI$ を用いて生成しているかを確認することができる。

#### 【0092】

なお、端末がその端末がもつ秘密鍵を用いて、不正を働いたとき、以下の確認方法により、秘密鍵より不正を働いた端末の情報を得ることができる。不正を働いた端末の秘密鍵 $p1, p2$ が判明したとする。また、不正の追跡者は、発行識別子情報と端末の対応表と持っているとする。 $p1 - c1, p2 - c2$ は共に発行識別子情報 $IDI$ で割り切れる。そのため、 $GCD(p1 - c1, p2 - c2)$ は発行識別子情報で割り切れる。したがって、 $GCD(p1 - c1, p2 - c2)$ の素因数を調べることにより、不正の追跡者は、取りうる発行識別子情報を限定でき、発行識別子情報を知る、すなわち、端末を特定するための助けとなる。

#### 【0093】

#### (実施の形態4)

本発明に係る4の実施の形態としての鍵発行システム4について、説明する。

図13は、実施の形態4における鍵発行システム4の構成を示す図である。本システム

は、鍵発行サーバA41、B42、C43と、鍵発行監査サーバ44と、端末装置351、352、353、...、35mから構成される。mは自然数であり、例えば1000である。この場合、端末装置が1000台存在することになる。

**【0094】**

＜鍵発行サーバA41、B42、C43の構成＞

鍵発行サーバA41、B42、C43は同じ構成であるため、以下では代表して鍵発行サーバA41の構成を示す。鍵発行サーバA41、B42、C43にはそれぞれ、予め識別子：SIDA、SIDB、SIDC、及び検証値cA、cB、cCが与えられている。

鍵発行サーバA41は、予め与えられた検証値cAを用いてRSA暗号における秘密鍵及び公開鍵を生成し、公開鍵証明書を発行した後、秘密鍵及び公開鍵証明書を端末装置へ送信する。また、鍵発行サーバA41は、鍵発行監査サーバ44から発行済鍵依頼情報が送られた場合、発行済公開鍵情報を鍵発行監査サーバ44へ送信する。

**【0095】**

鍵発行サーバA41は、実施の形態3と同様の識別子生成部3103と、識別子格納部3104と、発行秘密鍵判定部3106と、発行鍵生成部3107と、発行秘密鍵格納部3108と、発行公開鍵格納部3109と、実施の形態3と異なる送信部4101と、受信部4102と、素数生成部4105と、秘密鍵格納部4110と、証明書生成部4111と、証明書格納部4112と、発行済公開鍵情報格納部4113と、を備える（図14参照）。

**【0096】**

送信部4101は、端末装置35i（i=1～n）へ生成した秘密鍵及び公開鍵証明書を、鍵発行監査サーバ44へ発行済公開鍵情報を送信する。公開鍵証明書については、証明書生成部4111の説明で述べる。

受信部4102は、端末装置35iから鍵生成要求情報を、鍵発行監査サーバ44から発行済鍵依頼情報を受信する。

**【0097】**

素数生成部4105は、512ビット素数を生成する。なお、ここでは鍵長が1024ビットのRSAを想定しているため、512ビット素数を生成するとしたが、鍵長をlenビットとして、len/2ビットの素数を生成するとしてもよい。

（素数生成部4105の構成及び動作）

素数生成部4105は、実施の形態3と同様の第1の素数情報生成部31051と、実施の形態3と異なる第2の素数情報生成部41052と、を備える（図15参照）。

**【0098】**

第2の素数情報生成部41052は、256ビット素数qと、qのビットサイズ256と、発行識別子情報IDI及び、予め与えられた検証値cAを用いて、512ビットの素数Nを生成する。第2の素数情報生成部41052は、実施の形態2の素数生成装置2を用いて、素数Nを生成する。

秘密鍵格納部4110は、鍵発行サーバA41の秘密鍵SKKISを格納する。

**【0099】**

証明書生成部4111は、公開鍵PKと発行識別子情報IDIに対する公開鍵証明書Certを、秘密鍵格納部4110に格納されている秘密鍵SKKISを用いて生成する。具体的には、例えば、 $Cert = n || e || IDI || Sig(SKKIS, n || e || IDI)$ とする。ここで、 $Sig(K, D)$ はデータDに対する鍵Kを用いたときの署名データである。また、||はビットまたはバイトの連結である。

**【0100】**

証明書格納部4112は、公開鍵証明書Certを格納する。

発行済公開鍵情報格納部4113は、発行した公開鍵 $PK = (n, e)$ と発行識別子情報IDIの対である発行済公開鍵情報(PK, IDI)を格納する。なお、発行済公開鍵情報格納部4113は、発行済公開鍵情報である発行履歴を格納するために使用するため、電源が切れてもデータが消えない不揮発性メモリ（例えば、ハードディスクなど）でな

なければならない。また、発行済公開鍵情報格納部 4113 は、鍵発行を行うたびに、発行済公開鍵情報を蓄積していくものとする。以下では、蓄積された複数の発行済公開鍵情報を発行済公開鍵情報群とよぶ。

**【0101】**

＜鍵発行サーバ A41、B42、C43 の動作＞

(a) 鍵発行時の動作

鍵発行サーバは、端末装置 35i (i は、1 から m までのいずれかの数) から鍵発行依頼情報を受信すると、秘密鍵及び公開鍵証明書を端末装置 35i へ送信する。以下にその動作を示す。なお、鍵発行サーバ A41、B42、C43 の動作は同様であるため、以下に代表して鍵発行サーバ A41 の動作を示す。図 16 にこの動作のフローチャートを示す。

**【0102】**

ステップ S601: 受信部 4102 は、端末装置 35i より送信された鍵発行依頼情報を受信する。

ステップ S602: 識別子生成部 3103 は、発行識別子情報: IDI を生成し、識別子格納部 3104 に格納する。

ステップ S603: 素数生成部 4105 は、予め与えられた検証値 cA を用いて、素数 p1 を生成する。

**【0103】**

ステップ S604: 素数生成部 4105 は、予め与えられた検証値 cA を用いて、素数 p2 を生成する。

ステップ S605: 発行秘密鍵判定部 3106 は、素数 p1 と p2 が  $p1 = p2$  を満たすかを判定する。p1 = p2 の場合は、ステップ S604 へ。それ以外は、発行秘密鍵格納部 3108 に格納する。次のステップへ。

**【0104】**

ステップ S606: 発行鍵生成部 3107 は、 $n = p1 \times p2$  を計算する。また、発行鍵生成部 3107 は、乱数 e を生成し、n と e の組  $PK = (n, e)$  を公開鍵として発行公開鍵格納部 3109 に格納する。さらに、発行鍵生成部 3107 は、 $e \times d = 1 \pmod{n}$  を満たす d を計算し、p1、p2 と d の組  $SK = (p1, p2, d)$  を秘密鍵として発行秘密鍵格納部 3108 に格納する。

**【0105】**

ステップ S607: 証明書生成部 4111 は、公開鍵  $PK = (n, e)$  と発行識別子情報 IDI に対する公開鍵証明書 Cert を生成し、証明書格納部 4112 に格納する。

ステップ S608: 送信部 4101 は、発行秘密鍵格納部 3108 に格納されている秘密鍵  $SK = (p1, p2, d)$  と、証明書格納部 4112 に格納されている公開鍵証明書 Cert を端末装置 35i へ送信する。

**【0106】**

ステップ S609: 発行済公開鍵情報格納部 4113 は、発行公開鍵格納部 3109 に格納されている公開鍵 PK と、識別子格納部 3104 に格納されている発行識別子情報 IDI の対である発行済公開鍵情報 (PK, IDI) を格納し、終了する。

(b) 鍵発行監査時の動作

鍵発行サーバ A41、B42、C43 は、鍵発行監査サーバ 44 より、発行済鍵依頼情報を受信すると、発行済公開鍵情報群を鍵発行監査サーバ 44 へ送信する。以下では、その動作について述べる。なお、鍵発行サーバ A41、B42、C43 の動作は同様であるため、以下に代表して鍵発行サーバ A41 の動作を示す。図 17 にこの動作のフローチャートを示す。

**【0107】**

ステップ S651: 受信部 4102 は、鍵発行監査サーバ 44 より送信された発行済鍵依頼情報を受信する。

ステップ S652: 送信部 4101 は、発行済公開鍵情報格納部 4113 に格納されて

いる発行済公開鍵情報群を鍵発行監査サーバ44へ送信し、終了する。

#### <鍵発行監査サーバ44の構成>

証明書発行サーバ44は、送信部441と、受信部442と、検証値情報格納部443と、発行済公開鍵情報格納部444と、発行公開鍵確認部445と、監査結果出力部446、を備える(図18参照)。

#### 【0108】

送信部441は、発行済鍵依頼情報を鍵発行サーバA41、B42または、C43へ送信する。発行済鍵依頼情報は、例えば、鍵発行サーバを示す識別子などである。

受信部442は、鍵発行サーバA41、B42または、C43から発行済公開鍵情報群を受信する。

検証値情報格納部443は、鍵発行サーバを示す識別子SIDA、SIDB、SIDCと、検証値cA、cB、cCとの対応を示す検証値対応テーブル(図19参照)を格納する。

#### 【0109】

発行済公開鍵情報格納部444は、発行済公開鍵情報群を格納する。

発行公開鍵確認部445は、発行済公開鍵情報格納部444に格納されている公開鍵情報群に含まれるすべての公開鍵と発行識別子情報を確認する。以下に具体的な確認方法を述べる。公開鍵を $PK = (n, e)$ 、発行識別子情報をIDIとする。また、発行済公開鍵情報群の送信元である鍵発行サーバが鍵発行サーバA41である場合について述べる。発行公開鍵確認部445は、鍵発行サーバA41を示す識別子SIDAと、検証値情報格納部443に格納されている検証値対応テーブルを用いて、検証値cAを得る。次に検証値cAを用いて、 $n - cA^2$ がIDIで割り切れるかによりチェックする。割り切れる場合は、公開鍵 $PK = (n, e)$ が発行識別子情報IDIで生成されたと判断し、それ以外は発行識別子情報IDIで生成されていないと判断する。

#### 【0110】

監査結果出力部446は、発行公開鍵確認部445の結果に基づき、監査結果を出力する。具体的には、すべての発行済公開鍵情報群に含まれる発行済公開鍵情報に対する公開鍵 $PK = (n, e)$ が発行識別子情報IDIで生成されたと判断された場合は、TRUEを出力する。それ以外は、公開鍵PKが発行識別子情報IDIで生成されていない、すべての発行識別子情報IDIを連結した不正発行識別子情報群を出力する。

#### 【0111】

##### <証明書発行サーバ44の動作>

以下に証明書発行サーバ44の動作を示す。ここでは、鍵発行を監査する先を鍵発行サーバA41として動作を示す。なお、他の鍵発行サーバ(B42、C43)を監査先とした場合も(識別子や検証値を除き)同様の動作を行う。図20にこの動作のフローチャートを示す。

#### 【0112】

ステップS701: 送信部441は、発行済鍵依頼情報を鍵発行サーバA41へ送信する。

ステップS702: 受信部442は、鍵発行サーバA41から送信された発行済公開鍵情報群を受信し、発行済公開鍵情報格納部444に格納する。

ステップS703: 発行公開鍵確認部445は、発行済公開鍵情報群に含まれるすべての発行済公開鍵情報に対して、発行済公開鍵情報内の発行済公開鍵PKが発行識別子情報を用いて生成されたかを確認する。

#### 【0113】

ステップS704: 監査結果出力部446は、発行公開鍵確認部445の確認結果に基づいて、監査結果を出力し、終了する。

##### <鍵発行システム4の動作>

以下に鍵発行システム4の動作を示す。以下では、まず、鍵発行サーバA41が端末装置35iに鍵を発行するときの動作を示す。端末装置35iは、鍵発行依頼情報を鍵発行

サーバA41へ送信する。鍵発行サーバA41は、鍵発行依頼情報を受信した後、発行識別子情報IDIを作成する。その後、鍵発行サーバA41は秘密鍵 $SK = (p1, p2, d)$ 、公開鍵証明書 $PK = (n, e)$ を生成する。さらに、鍵発行サーバA41は、公開鍵 $PK$ に対する公開鍵証明書 $Cert$ を生成し、公開鍵証明書 $Cert$ を鍵発行サーバA41へ送信する。鍵発行サーバA41は、秘密鍵 $SK = (p1, p2, d)$ と公開鍵証明書 $Cert$ を端末装置35iへ送信する。鍵発行サーバA41は、発行済の公開鍵 $PK$ と発行識別子情報IDIの対である発行済公開鍵情報を蓄積する。端末装置35iは、秘密鍵 $SK$ 、公開鍵証明書 $Cert$ を格納し、システムを終了する。

#### 【0114】

次に、鍵発行サーバA41の鍵発行を鍵発行監査サーバ44が監査するときの動作を示す。鍵発行監査サーバ44は、発行済鍵依頼情報を鍵発行サーバA41へ送信する。鍵発行サーバA41は、発行済鍵依頼情報を受信した後、発行済公開鍵情報群を鍵発行監査サーバ44へ送信する。鍵発行監査サーバ44は、発行済公開鍵情報群を受信し、発行済公開鍵情報群に含まれるすべての発行済公開鍵情報に対して、発行済公開鍵情報内の発行済公開鍵 $PK$ が発行識別子情報IDIを用いて生成されたかを確認する。さらに鍵発行監査サーバ44は、その確認結果に基づき、監査結果を出力し、システムを終了する。

#### 【0115】

##### <実施の形態4の効果>

鍵発行監査サーバは、鍵発行サーバが正しく発行識別子情報IDIを用いて生成したかを確認することができる。なぜなら、鍵発行を鍵発行サーバA41が行ったとすると、秘密鍵である素数 $p1$ 、 $p2$ はそれぞれ、素数 $q1$ 、 $q2$ 、乱数 $R1'$ 、 $R2'$ 、発行識別子情報IDIに対して、 $p1 = 2 \times q1 \times (IDI \times R1' + r1') + 1 = cA \bmod IDI$ 、 $p2 = 2 \times q2 \times (IDI \times R2' + r2') + 1 = cA \bmod IDI$ を満たすため、

$$\begin{aligned} n &= p1 \times p2 = (2 \times q1 \times IDI \times R1' + 1) \times (2 \times q2 \times IDI \times R2' + 1) \\ &= cA \times cA \bmod IDI \end{aligned}$$

となる。そのため、 $n - cA^2$ はIDIで割り切れるため、 $n - cA^2$ がIDIで割り切れることを確認することで、素数 $p1$ 、 $p2$ が正しく発行識別子情報IDIを用いて生成しているかを確認することができる。

#### 【0116】

なお、鍵発行監査時では、鍵発行サーバは、今までに発行したすべての発行済公開鍵情報を送信するとしているが、鍵発行監査を継続的に行う場合に、前回の鍵発行監査時で監査した以外の発行済公開鍵情報（すなわち、前回鍵発行監査時からの発行済公開鍵情報の差分）を送信するとしてもよい。

また、鍵発行サーバごとに、検証値を一つずつ与えているが、これを二つとしてもよい。すなわち、鍵発行サーバA41に対して、検証値を $cA1$ 、 $cA2$ と与えて、 $p1$ 、 $p2$ がそれぞれ、 $p1 = cA1 \bmod IDI$ 、 $p2 = cA2 \bmod IDI$ となるように秘密鍵を生成してもよい。

#### 【0117】

さらに、発行識別子情報IDIを用いて素数 $p1$ 、 $p2$ が生成しているかを確認する処理を、鍵発行監査サーバのみで行いたいとの要望があった場合、検証値対応テーブルを鍵発行監査サーバのみで秘密に保持すればよい。

##### (変形例)

上記に説明した実施の形態は、本発明の実施の一例であり、本発明はこの実施の形態に何ら限定されるものではなく、その旨を逸脱しない範囲において種々なる態様で実施し得るものである。例えば、以下のような場合も本発明に含まれる。

#### 【0118】

(1) 先にも述べたが、実施の形態3及び4における、生成する秘密鍵である素数のビットサイズは512に限らない。1024であっても、2048であってもよい。また

、素数情報生成部で生成する素数も同様に256ビットに限らない。

(2) 実施の形態3及び4の鍵発行サーバは、素数生成装置2を使用しているが、素数生成装置1を使用してもよい。その場合は、証明書発行サーバは $n-1$ がIDIで割り切れることを確認する。

【0119】

(3) 実施の形態1または、2の素数生成装置を素数生成手段として用いて、整数 $len$ と発行識別子情報IDIを入力とし、 $len$ ビットの素数を出力する素数生成装置としてもよい。

(4) 鍵発行サーバは3台以外の何台であってもよい。

【産業上の利用可能性】

【0120】

これらの構成によると、正しく鍵発行しているかを発行識別子情報IDIで割り切れるかをチェックすることで確認できる。

【図面の簡単な説明】

【0121】

【図1】本発明に係る1個の実施の形態としての素数生成装置1の構成を示すブロック図

【図2】素数生成装置1の動作を示すフローチャート

【図3】本発明に係る1個の実施の形態としての素数生成装置2の構成を示すブロック図

【図4】素数生成装置2の動作を示すフローチャート

【図5】本発明に係る1個の実施の形態としての鍵発行システム3の構成を示すブロック図

【図6】鍵発行サーバA31の構成を示す図

【図7】素数生成部3105の構成を示す図

【図8】鍵発行サーバA31の動作を示すフローチャート

【図9】証明書発行サーバ34の構成を示す図

【図10】証明書発行サーバ34の動作を示すフローチャート

【図11】端末装置35iの構成を示す図

【図12】端末装置35iの動作を示すフローチャート

【図13】本発明に係る1個の実施の形態としての鍵発行システム4の構成を示すブロック図

【図14】鍵発行サーバA41の構成を示す図

【図15】素数生成部4105の構成を示す図

【図16】鍵発行サーバA41の鍵発行時の動作を示すフローチャート

【図17】鍵発行サーバA41の鍵発行監査時の動作を示すフローチャート

【図18】鍵発行監査サーバ44の構成を示す図

【図19】検証値対応テーブルの一例を示す図

【図20】鍵発行監査サーバ44の動作を示すフローチャート

【符号の説明】

【0122】

1、2 素数生成装置

11 乱数生成部

12、22 素数候補生成部

13 第1素数判定部

14 第2素数判定部

3、4 鍵発行システム

31、41 鍵発行サーバA

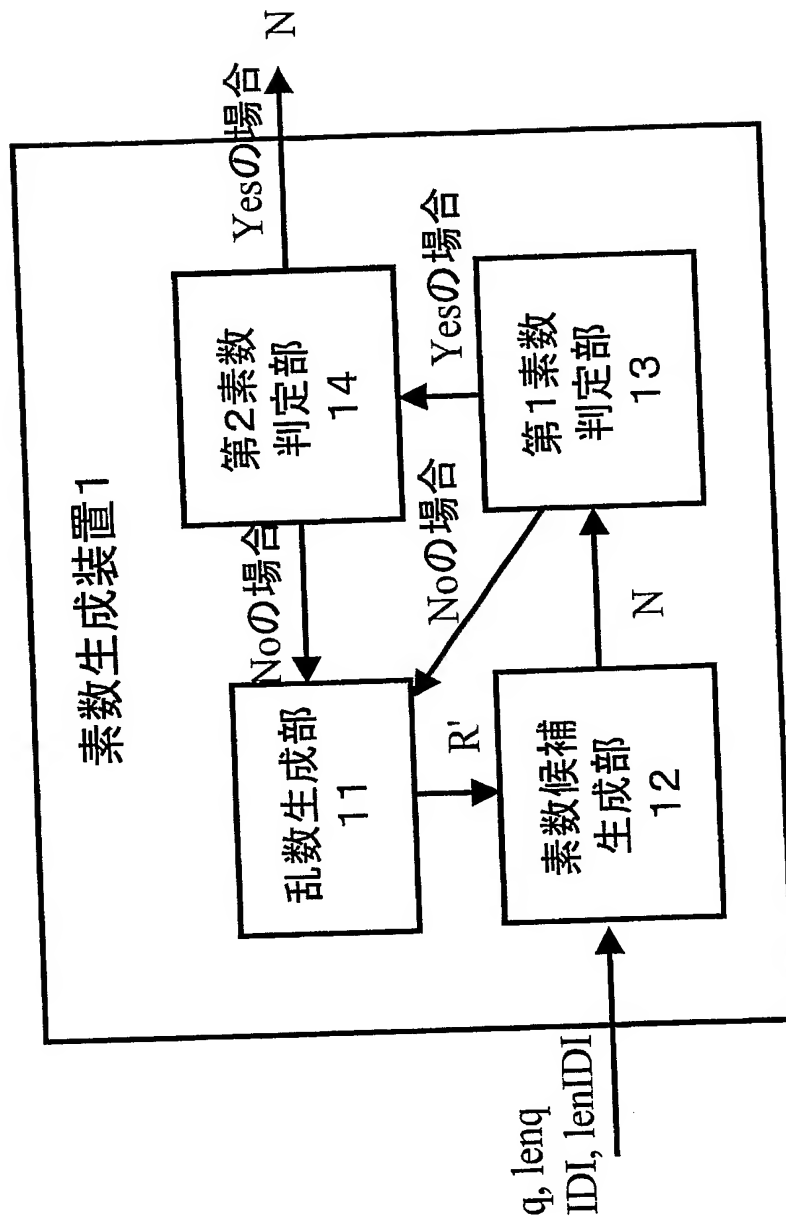
3101、341、35i1、4101、441 送信部

3102、342、35i2、4102、442 受信部

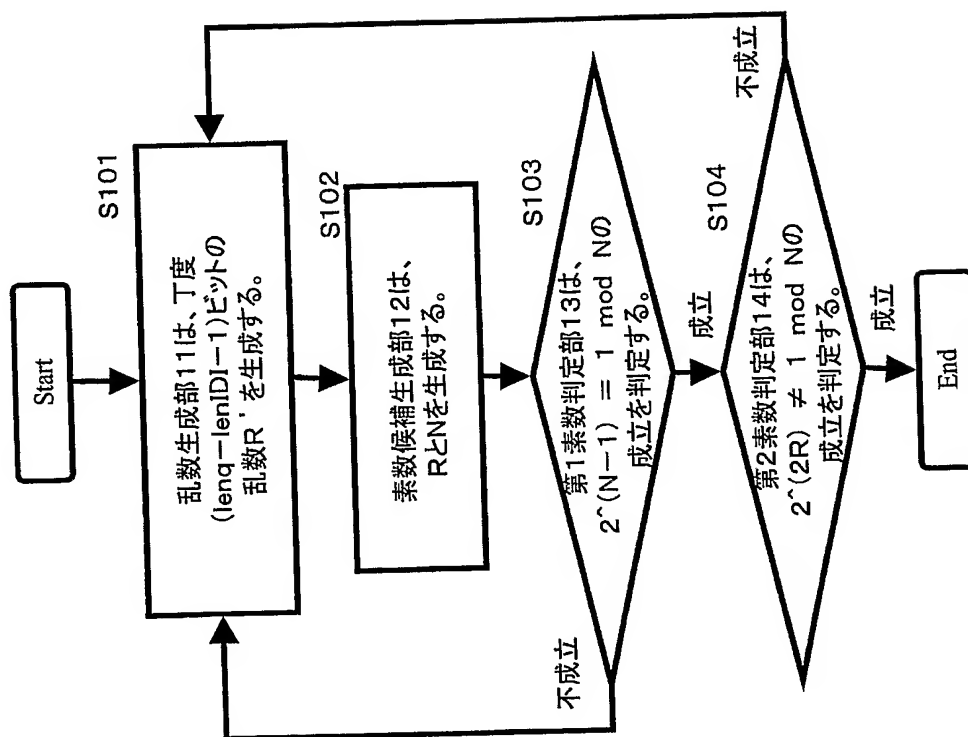
3 1 0 3 識別子生成部  
3 1 0 4 識別子格納部  
3 1 0 5、4 1 0 5 素数生成部  
3 1 0 5 1 第 1 の素数情報生成部  
3 1 0 5 2、4 1 0 5 2 第 2 の素数情報生成部  
3 1 0 6 発行秘密鍵判定部  
3 1 0 7 発行鍵生成部  
3 1 0 8 発行秘密鍵格納部  
3 1 0 9、3 4 5 発行公開鍵格納部  
3 1 1 0、4 1 1 2 証明書格納部  
3 2、4 2 鍵発行サーバ B  
3 3、4 3 鍵発行サーバ C  
3 4 証明書発行サーバ  
3 4 3、3 5 i 3、4 1 1 0 秘密鍵格納部  
3 4 4、4 4 5 発行公開鍵確認部  
3 4 6 発行識別子情報格納部  
3 4 7 公開鍵証明書生成部  
3 4 8、3 5 i 4 公開鍵証明書格納部  
3 5 i ( i = 1 ~ n ) 端末装置  
4 1 1 1 証明書生成部  
4 1 1 3、4 4 4 発行済公開鍵情報格納部  
4 4 鍵発行監査サーバ  
4 4 3 検証値情報格納部  
4 4 6 監査結果出力部



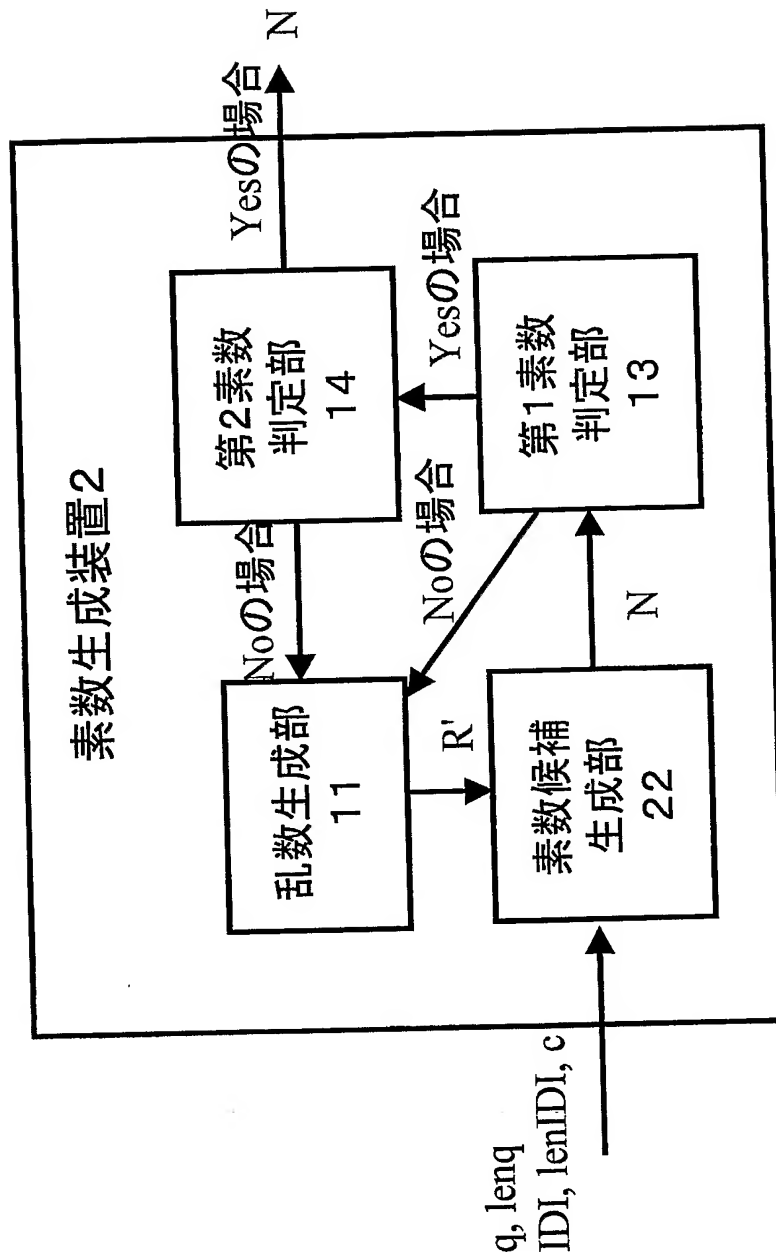
【書類名】 図面  
【図 1】



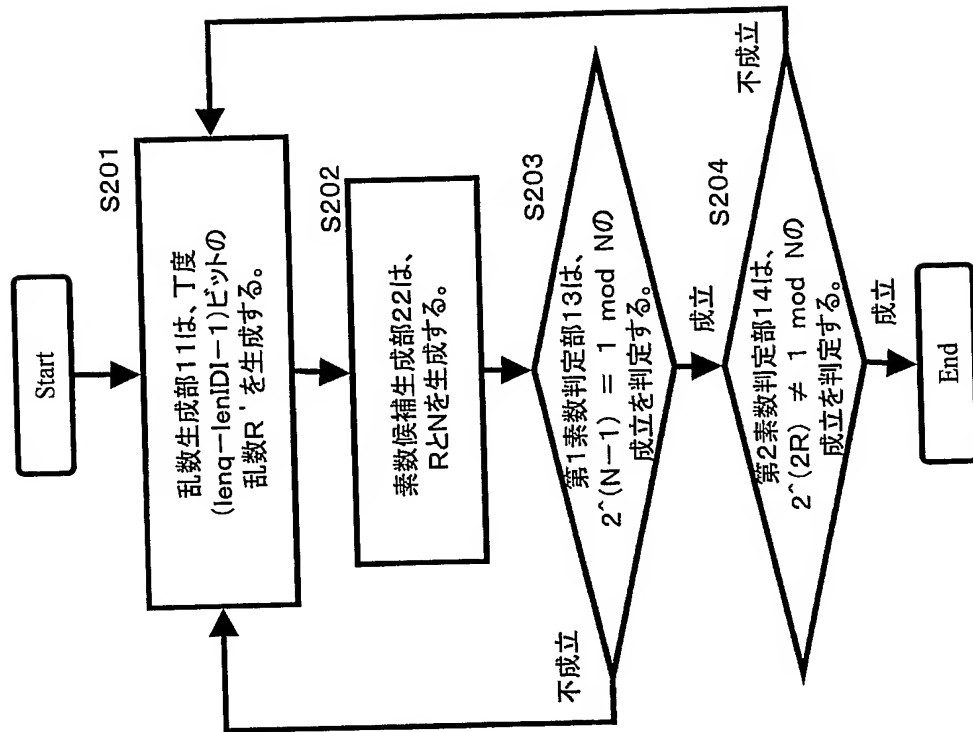
【図 2】



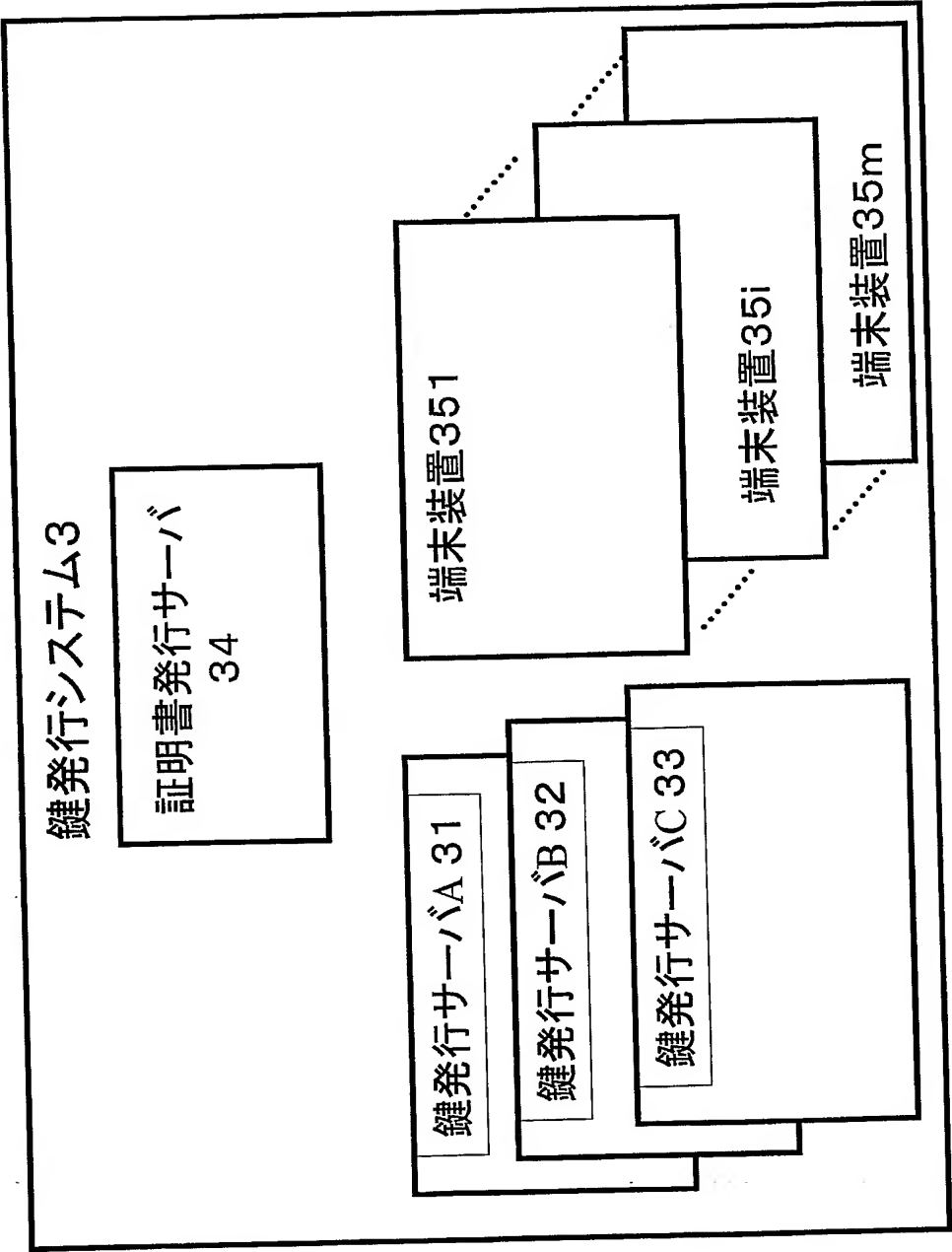
【図 3】



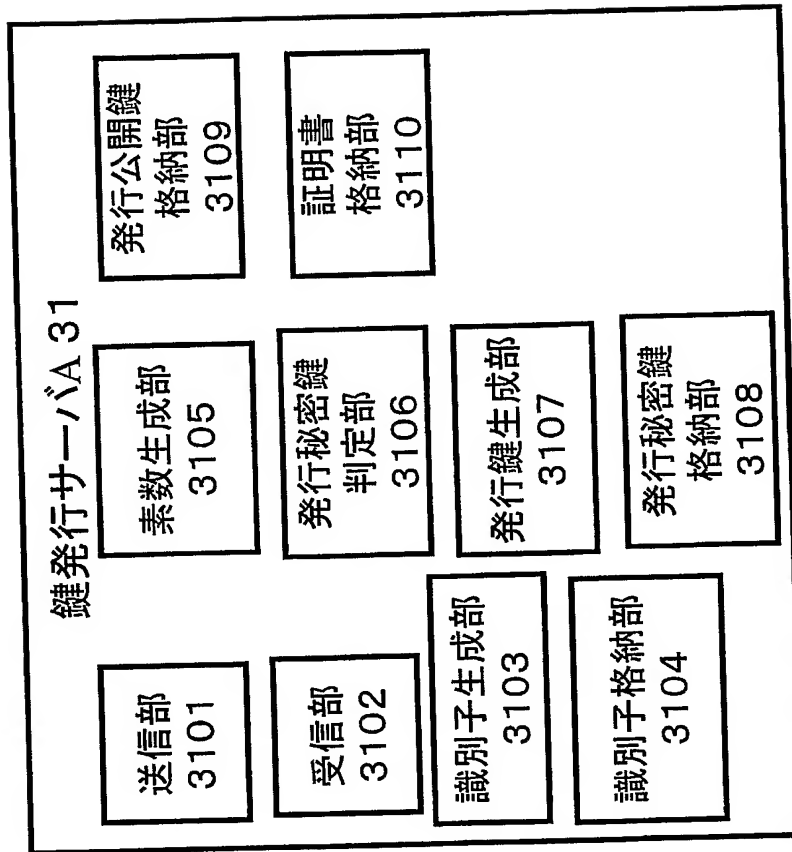
【図 4】



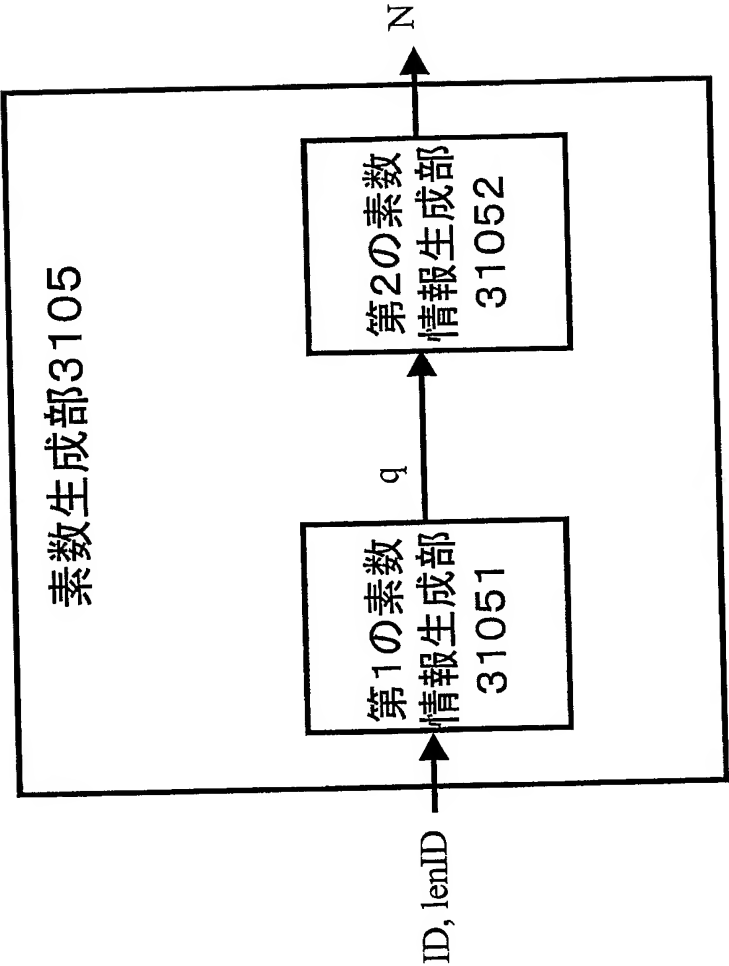
【図 5】



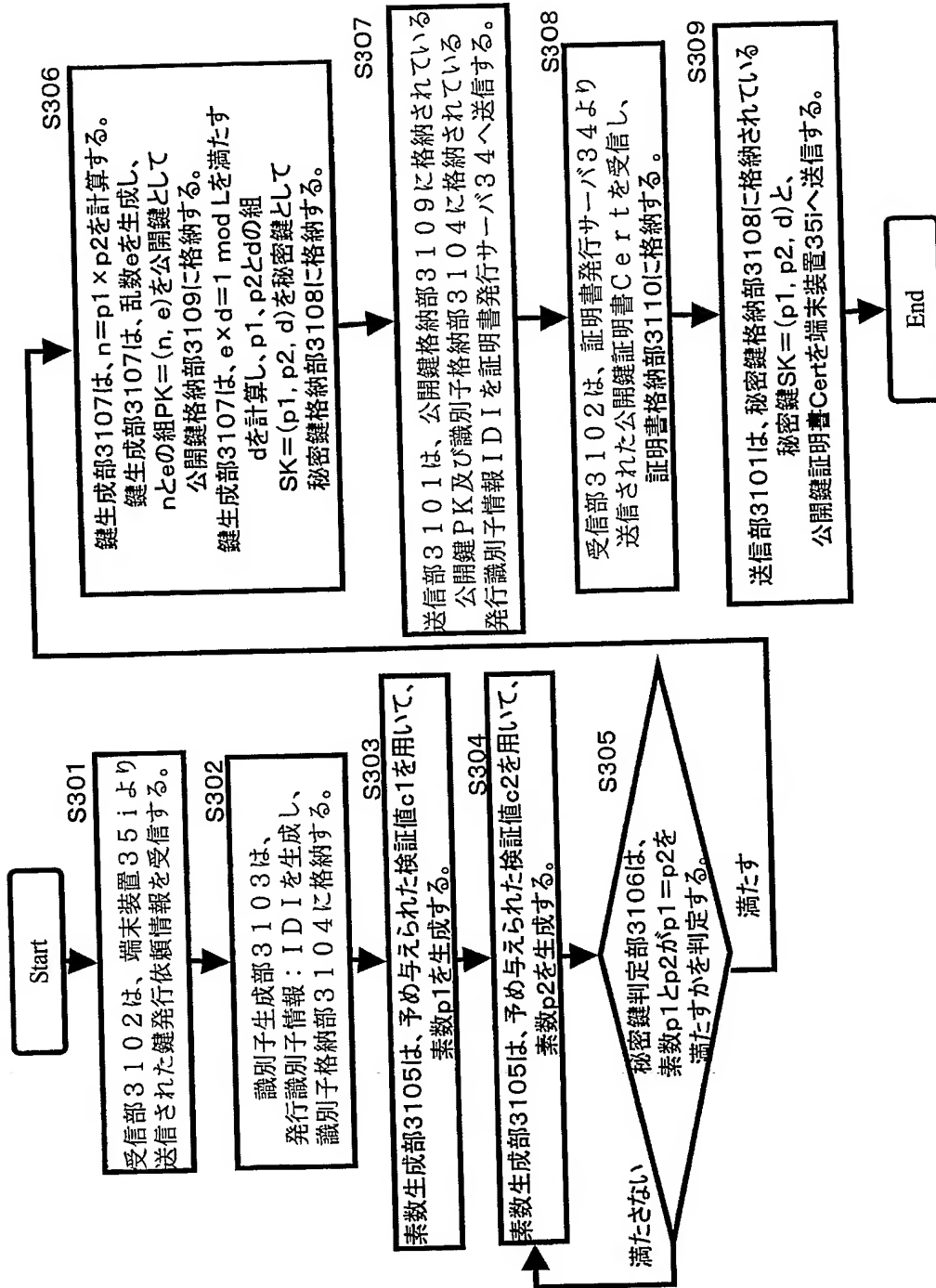
【図 6】



【図 7】

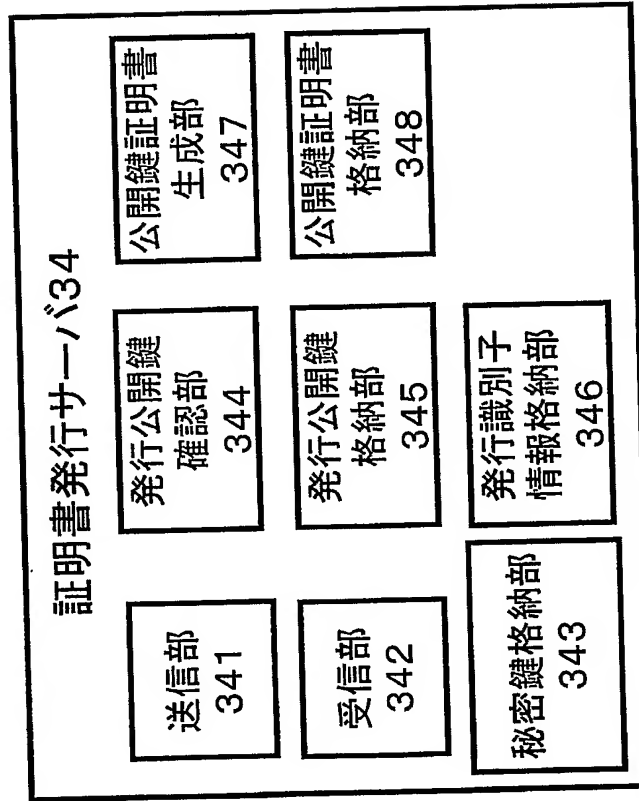


【図 8】

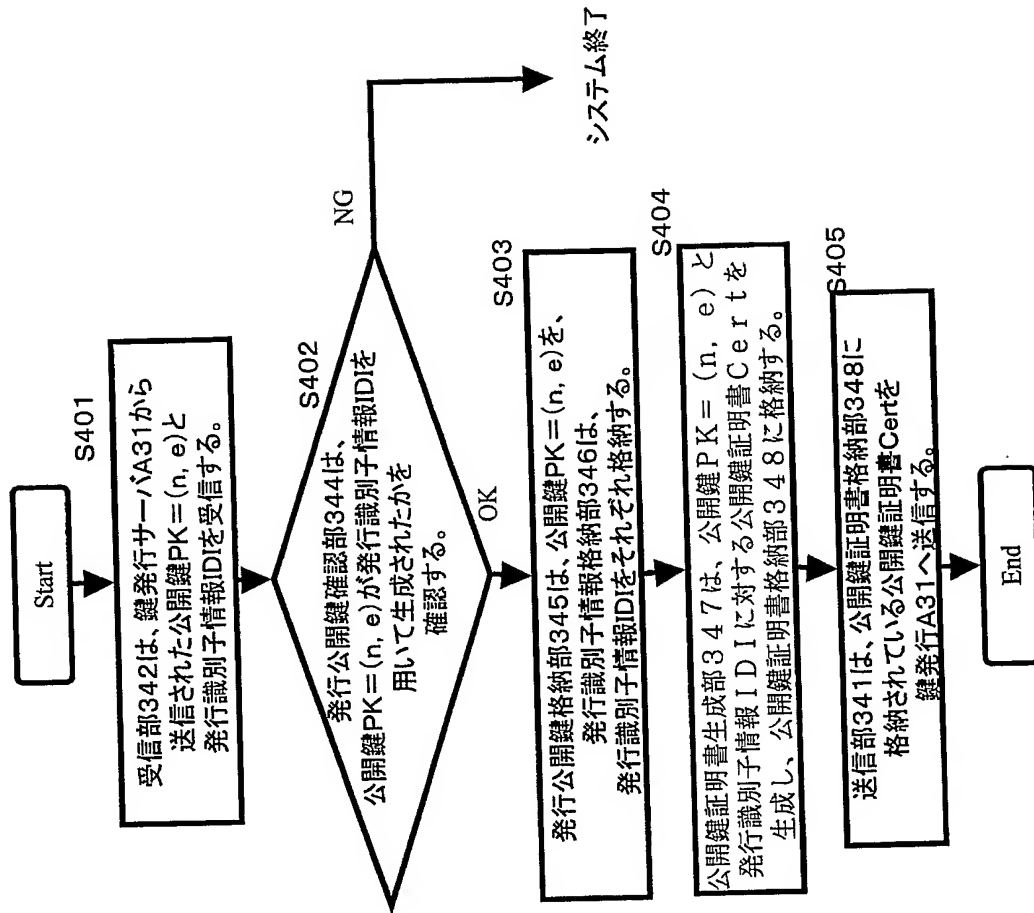




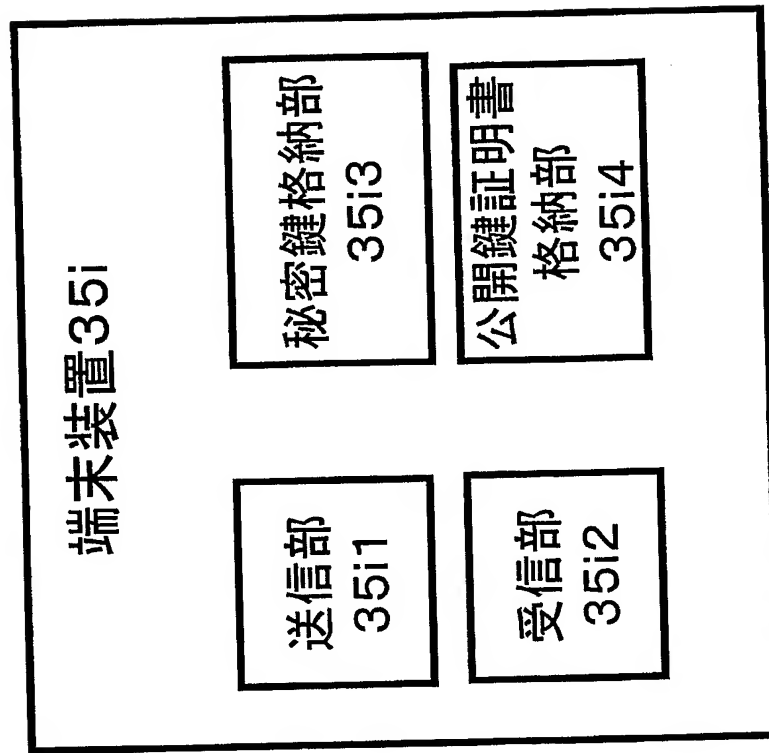
【図 9】



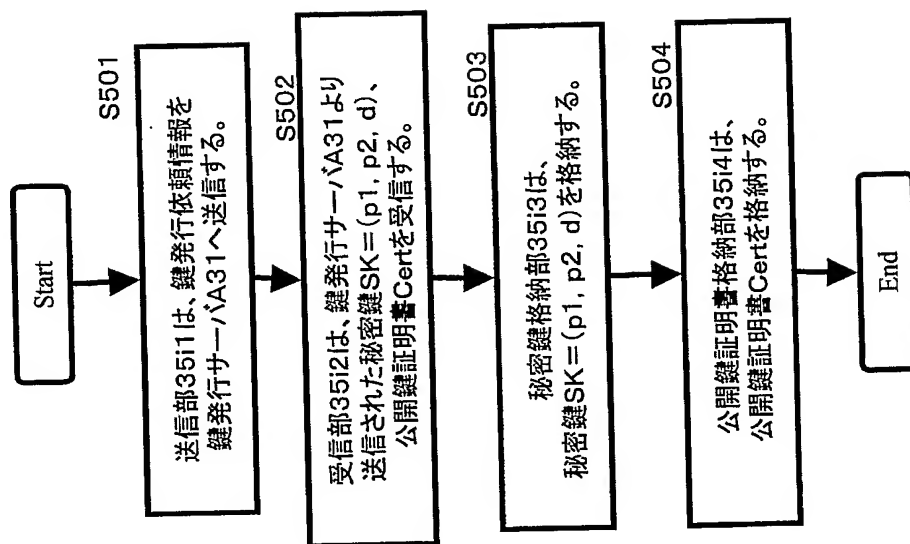
【図 10】



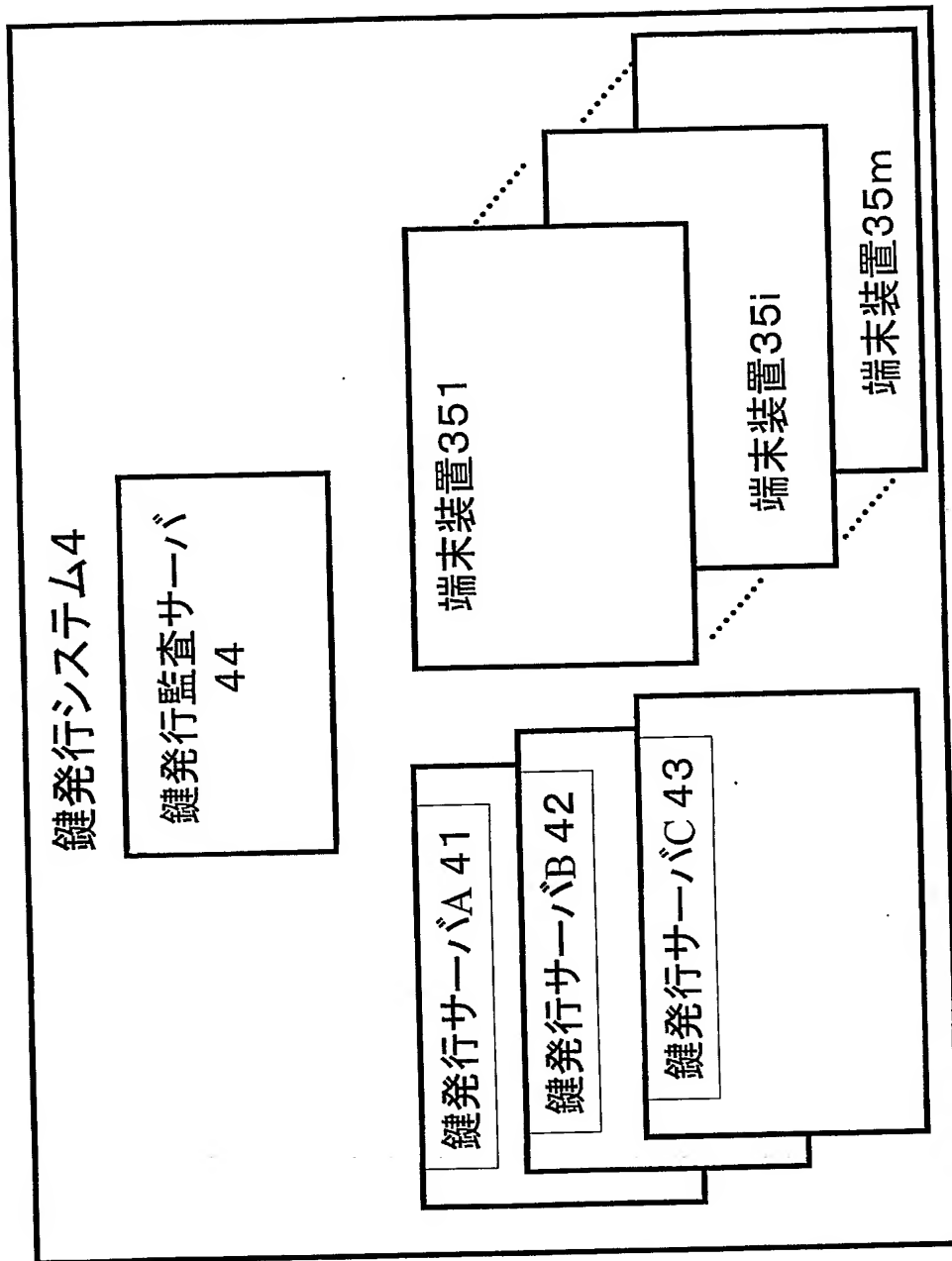
【図 11】



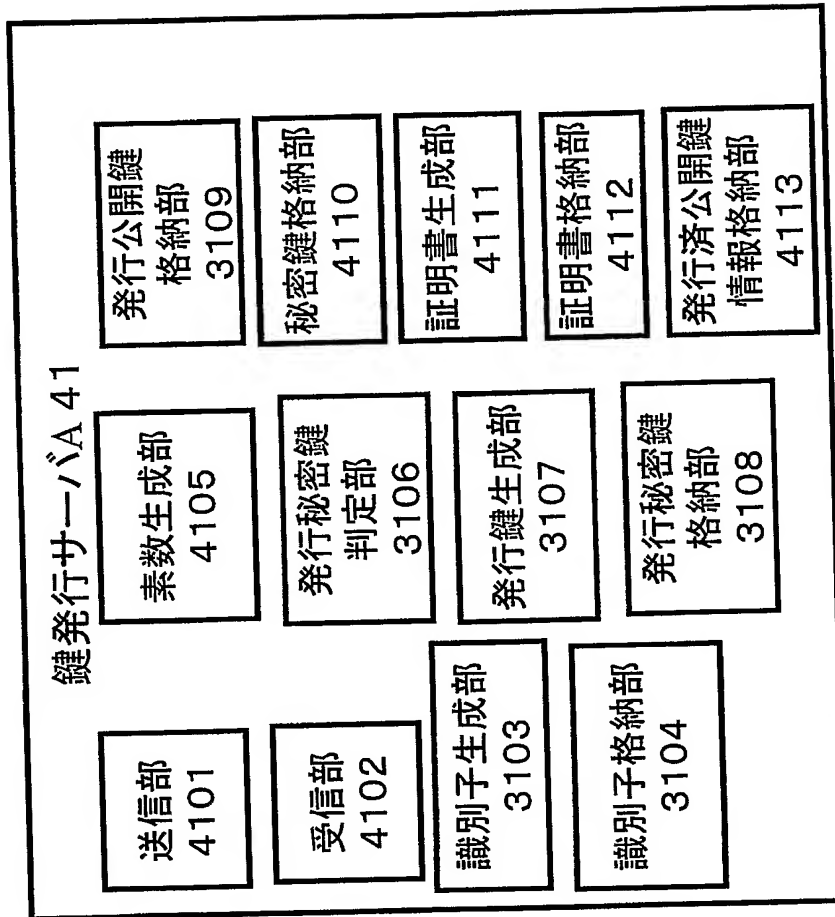
【図 12】



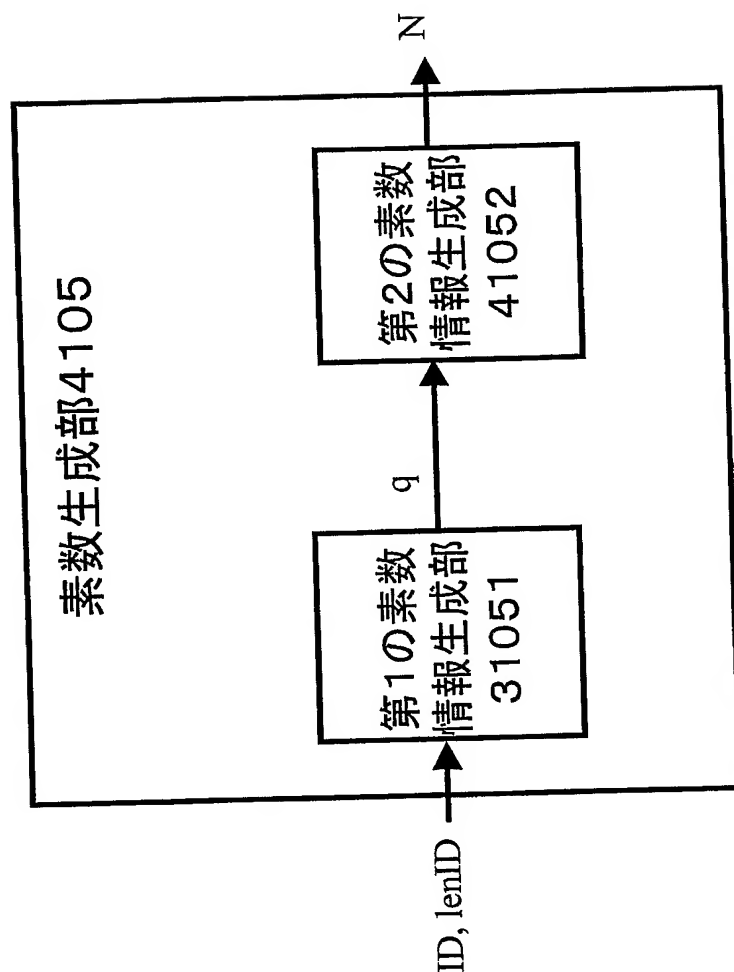
【図 13】



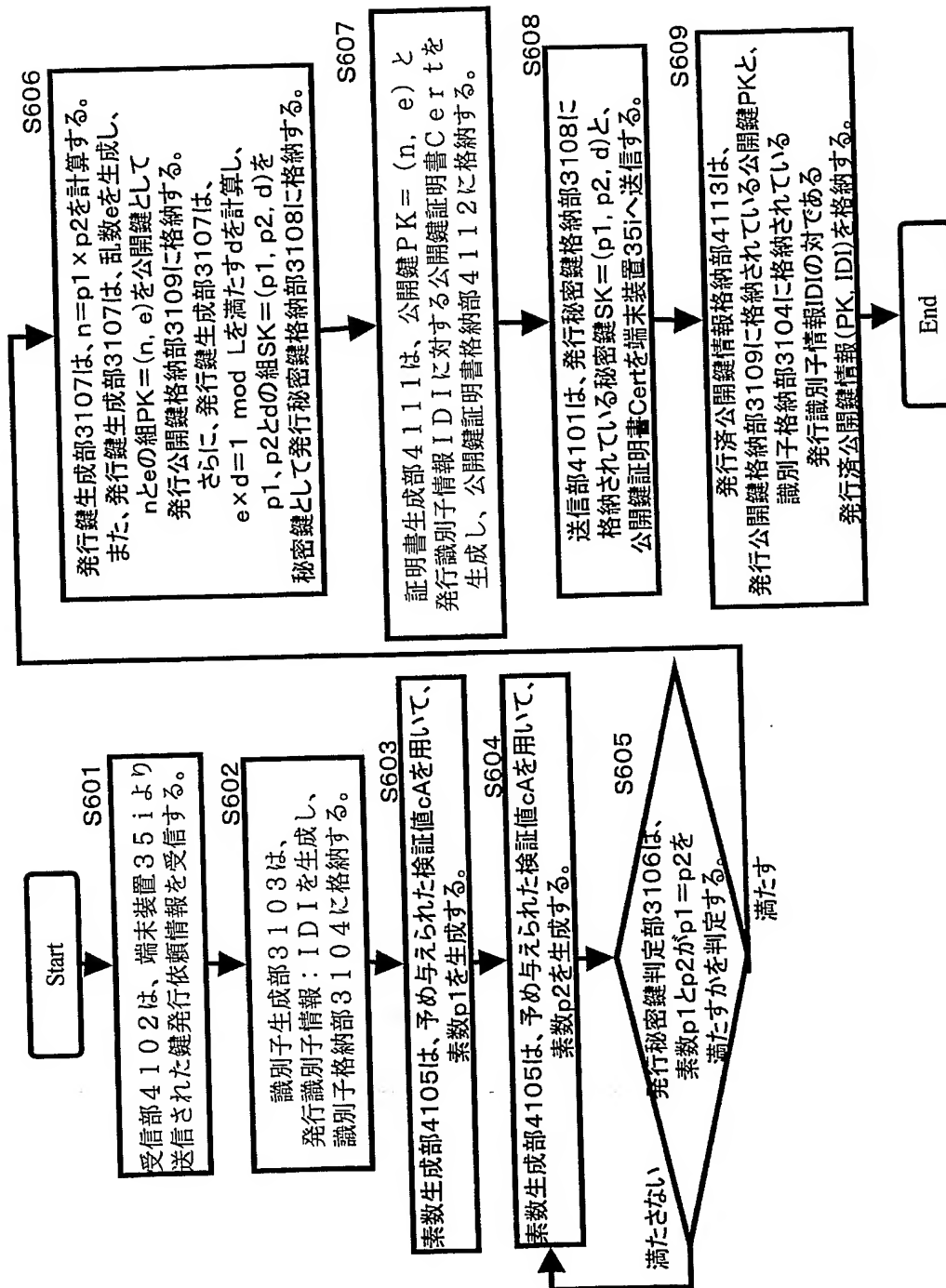
【図 14】



【図 15】

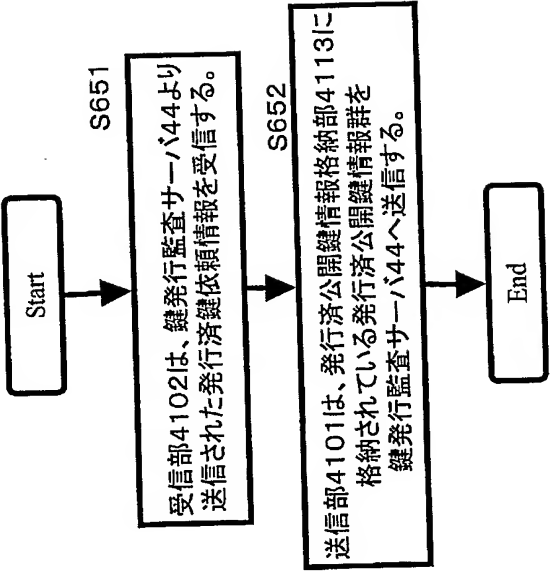


【図 16】

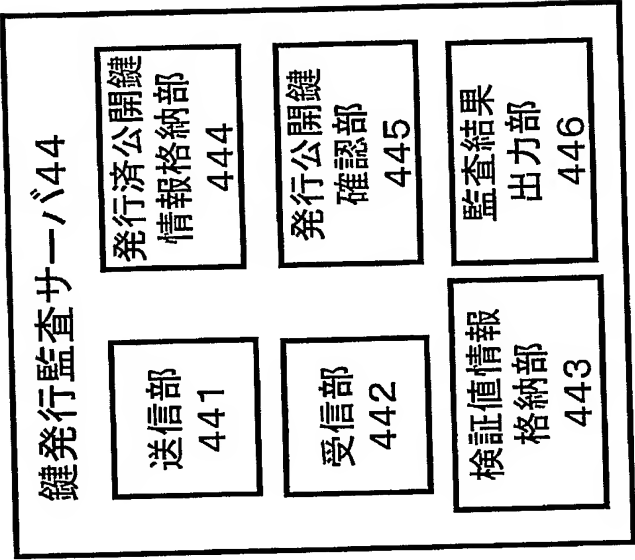




【図 17】



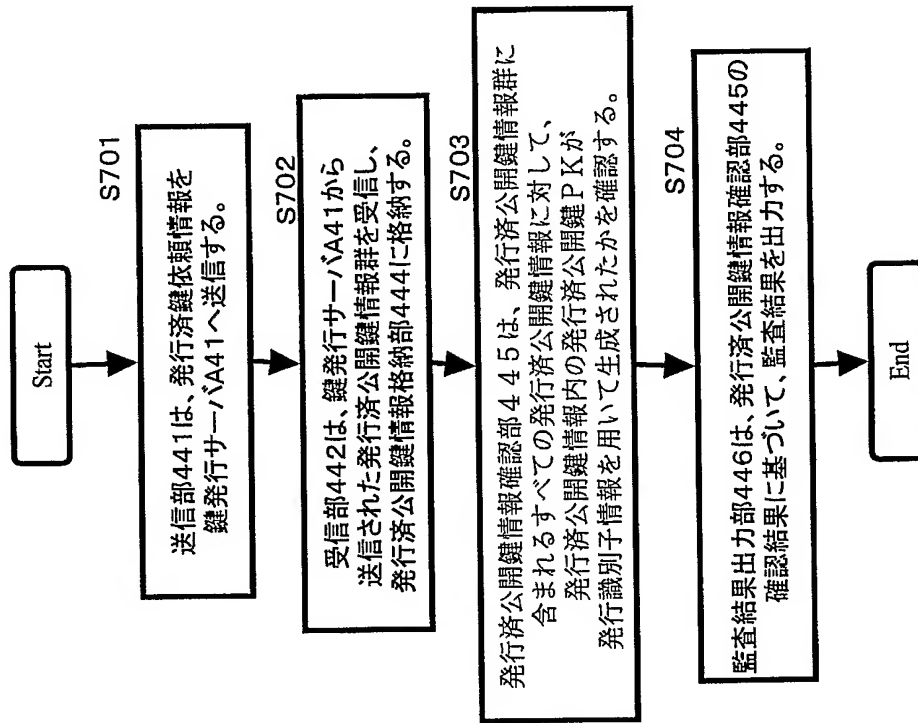
【図 18】



【図 1 9】

識別子	検証値
SIDA	cA
SIDB	cB
SIDC	cC

【図 20】



**【書類名】 要約書****【要約】**

**【課題】** 鍵発行システムで鍵発行サーバを複数もつ場合、鍵発行がシステム全体で正しく行われていることを保証するため、鍵発行システム全体で統一的に同じ鍵発行方法を使用し、管理したいとの要望がある。そこで、鍵発行システムで、鍵発行サーバが正しく鍵発行しているかを判定する方法があればよい。

**【解決手段】** 鍵発行サーバ A 31 は、送信部 3101 と、受信部 3102 と、識別子生成部 3103 と、識別子格納部 3104 と、素数生成部 3105 と、発行秘密鍵判定部 3106 と、発行鍵生成部 3107 と、発行秘密鍵格納部 3108 と、発行公開鍵格納部 3109 と、証明書格納部 3110 を備える。素数に発行識別子を埋め込み、発行識別子埋め込みを、公開鍵を用いて確認する。

**【選択図】** 図 5

特願 2 0 0 4 - 0 2 3 7 9 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 5 8 2 1 ]

1. 変更年月日

[変更理由]

住 所  
氏 名

1 9 9 0 年 8 月 2 8 日

新規登録

大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地

松下電器産業株式会社